

## 市民参加型地域づくりを考える

### －「まちの駅」をモデルケースとして－

#### 鯉江康正ゼミナール

|        |       |        |       |
|--------|-------|--------|-------|
| 05B043 | 土田陽輔  | 06B046 | 佐藤健太  |
| 07E004 | 石綿真也  | 07E018 | 黒田未奈子 |
| 07E019 | 小島和幸  | 07E038 | 寺本 誉  |
| 07E023 | 坂上勇太郎 | 07E027 | 重野友里  |
| 07E052 | 李 佩   |        |       |



## 目 次

|  |     |
|--|-----|
| はじめに .....                             | 432 |
| 1. 「まちの駅」の歴史と概要 .....                  | 432 |
| 1.1 「まちの駅」の歴史 .....                    | 432 |
| 1.2 「まちの駅」のコンセプト .....                 | 433 |
| 2. 過年度調査結果の概要 .....                    | 434 |
| 3. ヒアリング調査結果 .....                     | 435 |
| 3.1 「長岡市民センター」 .....                   | 435 |
| 3.2 ヒアリング調査地域の概要 .....                 | 436 |
| 3.3 富士市まちの駅ネットワーク .....                | 437 |
| 3.4 会津まちの駅 .....                       | 451 |
| 3.5 まちの駅ネットワーク本庄 .....                 | 459 |
| 4. 今年度のその他の活動報告 .....                  | 472 |
| 4.1 パネル展および写真展 .....                   | 472 |
| 4.2 まちの駅の食材を用いた模擬店（G P補助金対象外の活動） ..... | 473 |
| 5. 地域活性化への提言（とりまとめ） .....              | 475 |
| 5.1 提言の全体像 .....                       | 475 |
| 5.2 具体的提言内容 .....                      | 475 |
| 謝辞 .....                               | 477 |

## はじめに

長岡市内には38箇所（今年度活動開始時点）の「まちの駅」がある。そこに長岡大学も参加している。過去2年間の活動により、学生内でも多少、認知度が上がっているが未だ十分な水準ではない。

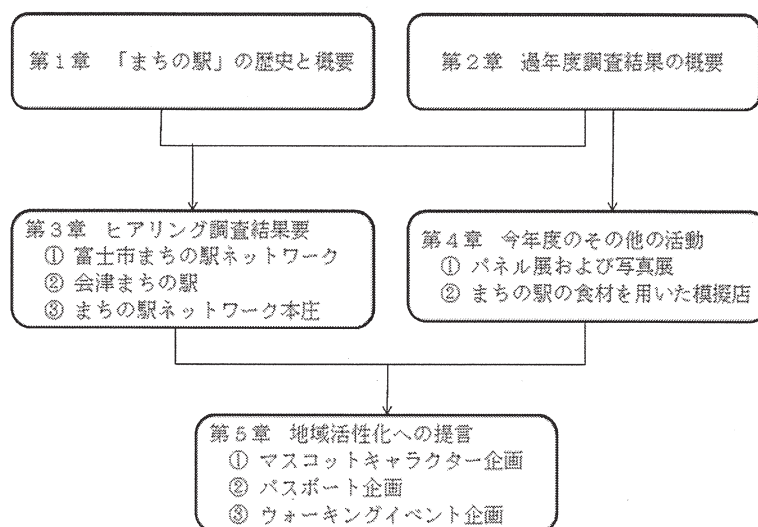
長岡市では、合併後新たに作成した「長岡市総合計画（平成21年3月）」で、多様な地域交流の推進をめざすとしている。地域間交流および地域内交流の拠点として、『ながおか市民センター』を「まちの駅」に位置づけている。そして、今後、「海」や「農」など地域資源を活用したさまざまなタイプの「まちの駅」を展開し、地域の情報を発信する交流拠点づくりを推進するとしている。また、民間事業者が設置する「まちの駅」を含め、市内全域の「まちの駅」のネットワークを構築し、長岡市の新しい魅力を発信するため、全国各地の「まちの駅」との情報交換や連携を進めるとしている。

地域の時代と言われて久しいが、地域活性化はなかなか進んでいないのが実態である。長岡市も人口は減少局面に入り、中心市街地は衰退し、周辺地域では高齢化が進んでいる。そのようななか、どのようにしたら、地域を活性化できるかを検討するため、「まちの駅」を利用した地域の活性化について検討することにした。

本ゼミでは平成19年度より、「まちの駅」をテーマに調査研究活動を行ってきた。

平成21年度は、20年度のアンケート調査結果及びアドバイザーになって頂いている『長岡市民センター』の職員の方のすすめを受けて、①富士地域、会津地域、本庄地域の「まちの駅」にヒアリング調査を実施した。あわせて昨年同様、②長岡市の「まちの駅」のパネル及び商品の展示、③「まちの駅」の食材を使った模擬店（豚汁とおにぎりの販売）を行った。本研究の構成は、図を参照されたい。

本研究の構成



## 1. 「まちの駅」の歴史と概要

### 1.1 「まちの駅」の歴史

「まちの駅」のお手本に、「道の駅」がある。「道の駅」は一般国道脇につくられた駐車場、トイレ付きの休憩施設で、「休憩機能」「情報交流機能」「地域の連携機能」の3つの機能をあわせもった施設である。平成2年に広島で開催された「中国地域まちづくり交流会」のシンポジウムでの参加者の発言、『不思議なのですが、JRには駅があるのに、なぜ道路には駅がないんでしょう。道路地図にはJRの駅は載っています。家族でド

ライブしていても、家内は1～2時間しますとトイレのことが気にかかるようです。すると、道路地図を見て、JRの駅を探すことになります。各市町村に1つぐらい、そういう施設がどこにあるのか道路地図に載せてみてはどうでしょうか』を受けて、平成3年に地域交流センターが社会実験を行い、この成果をもとに平成5年に制度化された。

現在「道の駅」はドライバーの休憩拠点、観光情報の発信基地、地域おこし等で注目され、設置数は917カ所（平成21年8月現在）にのぼる。いまや「道の駅」は国民に指示されるインフラへと成長を遂げた。

一方で、地域との関わりや、駅どうし・地域間のネットワークといったソフト面での工夫はなかなか進んでいないのが現状である。この駅や地域、“人のつながり”の機能を強化していくために生まれたのが「まちの駅」である。

「道の駅」「まちの駅」の検討経過は以下のとおりである。

「道の駅」「まちの駅」検討経過年表

| 年 月                | 動  き  |
|--------------------|---|
| 平成2年1月             | 中国地域まちづくり交流会で、「道の駅」の提案がなされる                                   |
| 平成3年10月<br>～平成4年4月 | 中国・中部・関東の3地域で、道の駅社会実験開始                                       |
| 平成5年2月             | 建設省道路局により、道の駅制度化  |
| 平成10年3月            | 全国総合開発計画の4つの戦略のひとつに「地域連携軸の展開」があげられる                           |
| 平成10年3月            | 中部西関東・北東北地域を皮切りに「連携センター（まちの駅の前身）」の提案・社会実験開始                   |
| 平成11年1月            | 2700通の応募から、「連携センター」→「まちの駅」に名称確定                               |
| 平成11年5月            | 570点の応募から、「まちの駅」シンボルマーク決定                                     |
| 平成11年5月～現在         | 各地域で「まちの駅」の社会実験や連携強化キャンペーンを実施。平成20年12月現在の参加施設は1619（実験数含む）を超える |
| 平成12年8月            | 「まちの駅」の全国ネットワーク「まちの駅連絡協議会」正式発足                                |
| 平成16年7月            | 「海の駅」発掘イベント「日本ぐるっと一周・海交流」完了                                   |
| 平成17年11月           | 「健康の駅推進機構」発足  |
| 平成18年9月～           | 海の駅、川の駅、健康の駅、学びの駅等、テーマ性の高い拠点連携の展開と組織化                         |

資料) まちの駅連絡協議会「まちの駅全国大会 in 上野」配付資料『まちの駅の歴史』より。

## 1.2 「まちの駅」のコンセプト

まちの駅をひとことでは「公共施設からまちかどのお店まで、既存の施設・空間に設置できる、人と人の出会いと交流をサポートする、まちの情報発信拠点」である。そのコンセプトは、「ひと・テーマ・まちをつなぐ拠点」であり、具体的には次の4つの面を持っている。

### ○ 人と人の出会いと交流を促進するヒューマンステーション

「まちの駅」とは、地域住民や来訪者が求める地域情報を提供する機能を備え、人と人の出会いと交流を促進する空間施設である。また、まちづくりの拠点となり、まちとまちをつなぐ役割を持つものである。人と人をつなぐ場であるということから、ヒューマンステーションと呼ぶことができる。

### ○ まちの窓口、サロン機能などの機能を有する空間

機能は、①まちの窓口としての案内機能（窓口機能）、②人の交流を促進する交流機能（サロン機能）等を持ったものである。そして、何よりも重要なことは、その拠点が何らかのテーマを持っており、オープンな空間であるということである。

○ まちづくりテーマをつなぐ、テーマステーション

それぞれの「まちの駅」には活動テーマがあり、そのテーマを連携させることで、豊かなまちづくりに貢献することができる。人々が運営する諸施設のテーマには、福祉、医療、アート、教育、スポーツ、観光、農業、海など、様々なものがある。

「道の駅」はドライバーの休憩拠点というのが大きなテーマであり、「道の駅」も、「まちの駅」のひとつと考えることができる。「まちの駅」は、テーマとテーマをつなぐ場であるということから、テーマステーションと呼ぶことができる。

○ 行政・民間を問わない設置・運営形態

「まちの駅」は主に、既存施設を活用して設置することを想定しており、その設置・運営主体は行政・民間を問わない。民間版の「まちの駅」にこそ自由な工夫が許されるといえる。

これらを、簡単に言えば、「まちの駅の機能」は、次の4機能に集約される。

- ① 休憩機能：誰でもトイレが利用でき、無料で休憩できる機能
- ② 案内機能：「まちの案内人」が、地域の情報について丁寧に教える機能
- ③ 交流機能：地域の人と来訪者の、出会いと交流のサポートをする機能
- ④ 連携機能：まちの駅間でネットワーク化し、もてなしの地域づくりをする機能

## 2. 過年度調査結果の概要

本ゼミでは平成19年度より、「まちの駅」をテーマに調査研究活動を行ってきた。平成19年度は、①文献・資料調査により「まちの駅」の歴史と概要を整理し、②文献・資料調査及びヒアリング調査により、長岡市における「まちの駅」の現状と課題をまとめ、③「まちの駅 長岡大学」の活性化に向けて以下の4つの提言を行った。

提言1：交流会への積極的参加と学生への情報発信

提言2：教職員及び学生による「まちの駅 長岡大学」活性化協議会の設置

提言3：学内での「まちの駅 長岡大学」の認知と予算・人的協力体制の構築

提言4：学校施設の積極的解放と学外への情報発信

平成20年度は、前年度調査を受ける形で、①全国の「まちの駅」へのアンケート調査の実施、②長岡市の「まちの駅」のパネル及び商品の展示、③「まちの駅」の食材を使った模擬店（豚汁とおにぎりの販売）を行った。活動②及び③は学園祭（悠久祭）で実施したが、③についてはG Pの活動ではなく、ゼミ独自の活動として行った（補助金の対象外）。上記以外にも、「まちの駅」やG Pを通しての活動をパネルにし、学内に展示するなど多くの活動を行ってきた。その結果、平成19年度には学生にほとんど知られていなかった「まちの駅」が、今ではほとんどの学生がその存在を知るようになっている。また、図書館や駐車場の一般開放など実行に移された提言もある。

### 3. ヒアリング調査結果

#### 3.1 「長岡市民センター」

##### (1) 実施概要

日時：平成21年6月1日

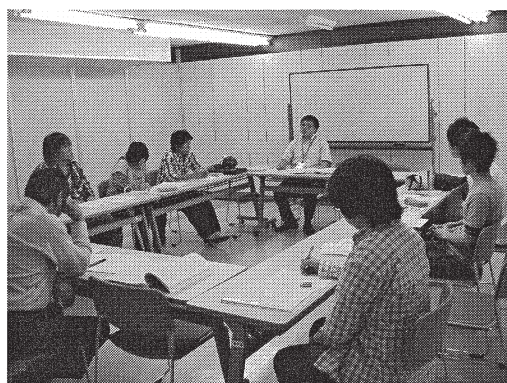
場所：「ながおか市民センター」

講師：「ながおか市民センター」 主任 木村 圭介 氏

##### (2) ヒアリング内容

<長岡市内の「まちの駅」ネットワークの現状と問題点・課題について>

- ・ 総合計画では、平成21年までに50駅というのが目標値であるが、現在38駅で残り12駅は今年度中に認定を予定している。
- ・ まちの駅自体を目に見えた形で評価するのは難しいが、お互いのまちの駅同士のつながりや、地域のためという思いは確実に強くなってきている。
- ・ 年3回駅長会議を実施している。その結果、ネットワークや地域のアピールを考えた意見が多くなってきている。



<具体的な今年度の「越後長岡まちの駅ネットワーク」の企画・スケジュールについて>

- ・ 4月11、12日と与板でまちの駅フェスタというイベントを実施した。越後長岡まちの駅主催では初めてのイベントであった。与板の人々は協力的で町の人々と手作りのようなイベントをやれてよかった。
- ・ 6月中旬に駅長会議を実施予定。第2回まちの駅フェスタの話等をする予定。2回目のまちの駅フェスタは9月に和島地域のまちの駅「もてなし家」で開催予定（イベントはタイミングが合わず実施できなかったが、平成22年6月～7月に、和島地域の見所を楽しんでもらえるイベントを実施予定：H22. 1. 18付け連絡メモ）。まちの駅フェスタは、今までまちの駅でやっていたイベントに乗っかる形で今後も続けていきたい。
- ・ 今年もまちの駅巡りツアーを企画中。今年は山古志と、もう一か所を予定している。
- ・ 11月に市民活動祭りがあるが、今年もコーナーを作って参加予定。これに合わせて新しいまちの駅も決める。
- ・ 長岡の情報も盛り込んだもう少し見やすく、読み応えのあるパンフレットの作成も企画中。これは業者に頼む予定でなかなか差し替えがきかないため、ある程度まちの駅が揃ってからの作成になる。（今年度は予算の関係もあって作成できなかったが、来年度に作成することが駅長会議で決まった。：H22. 1. 18付け連絡メモ）
- ・ また、業者に頼むパンフレットとは別に、各まちの駅お勧めの場所などを載せた小冊子のようなものを越後長岡まちの駅ネットワークで長岡祭りまでに作る予定。

<上記の企画・スケジュールに対して鯉江ゼミで協力、期待されることについて>

- ・ まちの駅として学生ならではの情報の提供。
- ・ まちの駅イベントでのお手伝い。
- ・ 情報誌、新しいパンフレット作成での意見。
- ・ まちの駅フェスタや市民活動祭りにブースで参加してはどうか。

### 3.2 ヒアリング調査地域の概要

#### 3.2.1 富士市の概要

富士市は工業の盛んな町であり、特に製紙業が盛んである。富士市は豊富な水資源が在り、それを利用した製紙技術が発達していた。そして土地が広く工場の立地に適していた事、また首都圏と中京圏の中間にあり、運送システムが発達していた点で製紙産業は富士市の基盤産業になっていった。長岡市も同様に、製造業（精密機械、産業用機械、工作機械が代表的）の町として知られている。

富士市の主な産業である製紙業であるが、近年国内の紙需要は2000年をピークにほぼ横ばいとなっており、2008年には不景気から前年比減となった（註1）。富士市は製紙業に代わる産業として観光に目を付けた。現在、富士市は豊富な自然や名産品を目玉に、県外からの観光客の呼び込みに力を入れている。特に富士市は富士山のふもとに位置しているため、観光産業にとっての材料は整っている。しかし今現在も、製紙工場からの排煙や、煙突などによる景観の破壊などの問題が残っており、市は煙突を無くしたり、燃料を改善し空気をきれいにする対策などを取っているが、現在も市民や観光客からの評判はあまり思わしくない状況である（註2）。

（註1）紙需要のデータは <http://www.jpa.gr.jp/states/paper/index.html> より調査

（註2）公害問題などは、市のHPより調査

#### 3.2.2 会津地域の概要

会津まちの駅が所属している地域の主な産業は観光である。会津若松市は、鶴ヶ城や飯盛山など観光資源に恵まれ、豊かな自然と水資源、そして周辺地域からのアクセスの便利さが、観光地としての条件を整えている。また、この交通の便利さが製造業の発展へとつながっており、精密機器や医療用内視鏡の製造を行っている。特に内視鏡については世界的に大きなシェアを誇っており、全世界で使用される7割がこの会津地域で製造されている（註1）。

会津地域には年間を通して約400万人の旅客が訪れるが、そのうち長岡市からの観光客は20万人強となっており、全観光客の5%が長岡からの観光客である（註2）。その他の会津まちの駅がある地域のうち、会津坂下町は宿場町として栄えていた。そのため、食の文化が進んでおり、米やそばなどの他に馬刺しが有名である。人々の往来があったこの地域は馬が密接にかかわっていたこともあり、そのため、馬の肉が食べられるようになったと言われている（註3）。同じくまちの駅の拠点として発展している会津美里町は、温泉施設が3か所存在しており、また、会津若松市や会津坂下町とのアクセスもしやすいため、利用客も多くなっている（註4）。

（註1）会津若松市のHPおよびフリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』より



(註2) 国土交通省「第4回(2005年)全国幹線旅客純流動調査」

(註3) 会津坂下町のHPより

(註4) 会津美里町のHPより

### 3.2.3 本庄市の概要

本庄市は、平成18年1月10日に、本庄市と児玉町が合併して現市域となっている。平成17年国勢調査によれば、本庄市の人口60,807人で、市外への通勤・通学者数は15,783人である。児玉町は人口21,150人で、市外への通勤・通学者数は6,179人であった(註1)。この数値から見ると、本庄市は典型的なベッドタウンといえる。関越自動車道のインターもあり、新幹線も通っているため非常に都心にアクセスしやすい位置にある。長岡市も周辺からのアクセスが非常にしやすい県内の中心地である。しかし、周辺よりも企業が集中しているため、長岡市は周辺地域の就業先となっており、流出人口よりも流入人口のほうが多くなっている。

本庄市は、1年を通じて様々な祭りが行われ、そのうち11月2日、3日に行われる本庄祭りが大きな目玉であり、毎年多くの観光客を集めている。長岡にも大きな祭りが存在している。長岡祭りの大きな目玉は花火であるが、本庄市も以前は花火大会を行っていた。しかし平成18年度より、市の財政事情により行っていない(註2)

(註1) 総務省「平成17年国勢調査」

(註2) 本庄市のHPより

## 3.3 富士市まちの駅ネットワーク

### 3.3.1 まちの駅概要

富士市のまちの駅は平成16年に行政主導で4駅からスタートし、平成17年には22駅、平成18年には40駅、平成19年には50駅、平成20年には54駅と増加してきている。平成18年までは富士市の観光計画に沿って、市主導で進めてきたが、平成19年5月の「富士市まちの駅ネットワーク」設立後は、まちの駅主導で進めている。昨年の11月8～9日に富士市でまちの駅の全国大会が行われた。富士市が全国大会開催地に選ばれた理由は、富士市のまちの駅が伸びてきたということ、全国で初めて警察と連携をして防犯的な役割を持たせるということをしたためである。

### 3.3.2 選定理由

富士地域を選定した理由は、2008年度富士市で「まちの駅全国フォーラムin富士」が行われたためである。全国大会は全国の先進的な地域で行われているため、全国的に見ても活動が活発な地域であると言える。そこでどのような活動を行っているのか調査するために選定した。

また富士地域では、長岡と同様、市および新富士駅観光案内所が全面的にバックアップしているため、行政のバックアップの実情を把握するという目的でも実施した。

### 3.3.3各まちの駅のヒアリング結果

#### 3.3.3.1 「富士市役所観光課」

##### (1) 実施概要

日時：平成21年8月18日(火) 午前11時から正午

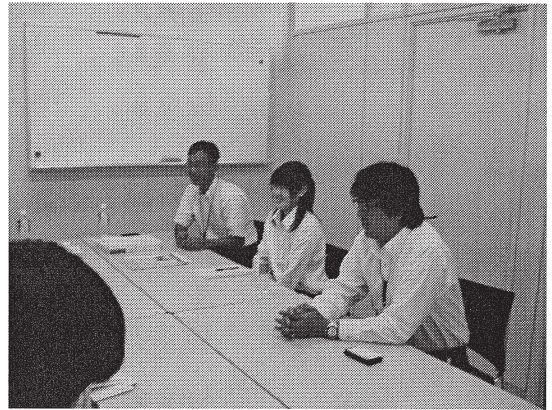
場所：「新富士駅観光案内所」

講師：富士市役所観光課 主幹 渡辺 哲成 氏

##### (2) ヒアリング内容

###### <富士市まちの駅の参加駅数の変化と市役所とのかかわり>

- ・平成16年に4駅でスタートし、平成17年には22駅、平成18年には40駅、平成19年には50駅、平成20年には54駅と増加してきている。
- ・平成18年までは富士市の観光計画に沿って、市主導で進めてきたが、平成19年5月の「富士市まちの駅ネットワーク」設立後は、まちの駅主導で進めている。
- ・パンフレット、看板、判子、ラック等の基本となる用具は、市より貸出しているが、まちの駅機関紙(情報誌)やその他の用具は自分たちで作っていくことになっている。
- ・行政はまちの駅の企画イベント、施設、企業との橋渡し等のサポートをしている。また、1駅当たり1万円と事務局に対して12万円の年間約70万円の予算をつけている。
- ・現在では、まちの駅の方々の声を大切にしたいので、行政は黒子に回っている。



###### <昨年富士市であった全国大会について>

- ・昨年の11月8～9日に富士市でまちの駅の全国大会が行われた。富士市が全国大会開催地に選ばれた理由は、富士市のまちの駅が伸びてきたということである。全国で初めて警察と連携をして防犯的な役割を持たせるということをしたためである。

###### <他の地域との交流>

- ・昨年の全国大会後、由比町、焼津市、岡部町と「静岡まちの駅ネットワーク」を立ち上げた。これは富士山静岡空港ができたため、県内の観光のネットワークにするという役割と全国大会でできた関係の維持のためである。年に1回ずつ順番に各地で集まる予定である。今年は県のアドバイザーを呼び、お互いどのような事をやっているかという情報交換をした。
- ・県内ではまちの駅がなんであるか認知されつつあるので、県内のまちの駅は増えていくのではないかと思われる。伊豆も興味を持っている。
- ・外国の方も富士市のまちの駅の視察に訪れている。

###### <富士市のまちの駅の特徴と過去に実施されたイベント>

- ・富士市のまちの駅の人はいろいろな趣味を持っている人、いろいろう職業の人がいるから面白い。

- ・ 会議は全体会、ブロック会議、役員会議があり、市役所は全体会と役員会議に出席している。全体会は年4回行われていて、ブロック会議は4ブロックにわかれている。
- ・ スタンプラリーをやっている。これはまちの駅を知ってもらうために実施された。
- ・ ウォーキングイベントも実施されている。コース設定をし、ゴール地点で物産展を行っている。
- ・ カレンダー、タオル、まちの駅の切符を作り販売している。まちの駅の切符とは硬券切符であり、レトロな切符の収集家や記念に買い求める人がいる。
- ・ まちの駅がお寺さんの祭りに協力した。宿泊施設がまちの駅になっているところもある。
- ・ まちの駅に来たいから来るという人は少ない。富士に来てくれた人に、もてなす機能が中心である。来ていただいた人には満足して帰ってもらっている。
- ・ まちの駅には井戸端会議のような機能を求めている。直接商売につながることはなくても長い目で見ればプラスの効果がある。
- ・ J R ウォーキングに協力している。これは J R が企画するイベントで駅と駅の間約 10km を歩いてもらい地域の魅力を感じてもらおうという企画である。まちの駅は休憩所等の機能として役立っている。まちの駅の人々も自分の所を見てもらえるので積極的に参加している。
- ・ 外への情報発信は H P くらいである。あまり外に出て行ってアピールするということはない。
- ・ 5つの心構え（①頑張らなくてもあきらめない。②愚痴は言わずにいい事さがし。③出会い・ふれあい・譲り合い。④身のたけに合ったおもてなし。⑤地道にコツコツ長いおつき愛。）の考えがあり、無理なくできるようになっている。

#### <問題点・課題>

- ・ 4 駅から始まり現在 54 駅になった。その結果、様々な考えをもつ人が集まることになり、考えの違う人を束ねることが難しい。現在はブロックごとにも活動しているが、この先は、お寺はお寺同士、宿泊施設は宿泊施設というような似たモノ同士、価値観の合うモノ同士がくっついていき、何かしたいということが見えてくるのかもしれない。
- ・ まちの駅は短期的なもの（企画等の成功等）を見ているので、行政は長い目線で見えていくことが重要である。
- ・ 頼まれたからやっているという駅もあり、温度差がある。ネットワークが膨らみすぎると今後、やめる駅も出てくるかもしれない。
- ・ ここ 2～3 年は全国大会の熱でもつかもしいれないが、その先はわからない。

### 3.3.3.2 「鷹岡の粉引屋」

#### (1) 実施概要

日時：平成21年8月18日(火) 午後1時20分から午後2時30分

場所：「鷹岡の粉引屋」 佐野米穀店

講師：「鷹岡の粉引屋」 駅長 まちの駅ネットワーク富士 代表 佐野正美 氏

#### (2) ヒアリング内容

##### <鷹岡の粉引屋について>

- ・平成16年からまちの駅になっている最初の4駅の中の一駅である。以前から縁台があり、お年寄りが座って話をするというような事があった。
- ・佐野氏は現在、富士市まちの駅の代表をされている。



##### <まちの駅に対する考え方>

- ・まちの駅はお休み処というイメージで捉えている。食べ物を提供するには許可があるので味見をしてもらいつつ話をしている。
- ・あるがままにということをも他のまちの駅の人に伝えている。まちの駅を継続してもらうためには商売がうまくいく必要があるのも、まちの駅の活動が負担にならないように考えている。

##### <今まで参加したイベントで感じたこと>

- ・参加者の考えがまちまちであり、その対応が難しいということである。例えばスタンプラリーひとつをとっても、判子だけ欲しくてすぐ帰ってしまう人、お店が知りたい人、まちの駅を知りたい人と考え方はまちまちである。
- ・「まちの駅」を知ってほしいという思いからイベント等に参加している。そのため利益を求めているわけではなく“協力している”というスタンスである。

##### <地域とまちの駅>

- ・昔は商店と地域が支えあっていた。地域の人が商店街を利用してくれたので、商店街はさまざまな役割をしてきたといえる。しかし今は安いものを求めてしまうため、もちつもたれつという関係が崩れシャッター通りになってしまっている。これを何とかしなければ、地域コミュニティが崩れていくと思われる。

##### <全国大会について>

- ・催しものをやる時は準備が8割、後の2割が当日である。
- ・今年は参加してくれる人全員にお手紙を書いた。一人が2～3人分を分担して書き、“〇〇さんに会いにいこうかな”という楽しみも作った。
- ・富士市をPRするためにお茶をサービスした。また交流の場では「しらす」、「さくらえび」など、他にないものを提供した。富士市自体では有名なものがあまりないので、由比や焼津などと協力した。

- ・ いろいろな人が役員にいるといろいろなアイデアが出てくる。それをいかにまとめるのかに苦労した。
- ・ イベントの会費は年会費から出した。あとは本部からの予算で賄えた。

#### <情報提供について>

- ・ 地方新聞に取り上げられた。毎回一駅ずつ、まちの駅を紹介してもらった。
- ・ SBSラジオで紹介された。
- ・ 自分達のネットワークだけでは出来ないことを行政が協力してくれた。
- ・ 情報誌を年に4回発行している。これはコミュニティ富士というところが作ってくれている。

### 3.3.3.3 「まちの駅 香り処」

#### (1) 実施概要

日時：平成21年8月18日（火） 午後2時から3時まで

場所：「まちの駅 香り処」

講師：「まちの駅 香り処」 駅長 池田 雅子 氏

#### (2) ヒアリング内容

##### <香り処の概要>

- ・ 香り処は富士本町商店街と東海道の交差点のそばにあるお店である。店内は狭いが、中には、神仏具、和風小物、お香、ローソクなどたくさんの商品があり、こぢんまりした空間で心が落ち着く。
- ・ 富士駅北地区の案内や冠婚葬祭の相談ができる。
- ・ 香り袋作り講座の受付を行っていた。



##### <まちの駅の依頼を引き受けた理由>

- ・ 2004年、市の広報誌で「まちの駅募集」をみて、面白そうだと思い応募した。
- ・ 小学校も近くにあるため、以前から生徒の傷の手当てや忘れ物を届けたりしていた。また、道をきく人も多く、まちの駅も同じような役目をすると理解した。防犯拠点としての重要性も感じている。

##### <他のまちの駅との交流について>

- ・ 初対面でも駅長会議やイベントで協力しあうことで、情報や意見交換、商品の売り場提供をしたこともある。

##### <まちの駅への来客数と動向>

- ・ ウォーキングのスタンプラリーなどで来店者が増えた。

##### <まちの駅としての活動、サービス内容>

- ・ まちの駅として、物産展、地域廻りツアー、スタンプラリーなどの出店に参加したことがある。
- ・ 地図、絵はがきの配布、イベント情報（旬情報の発刊など）を発信している。
- ・ ウォーキング、歴史探訪グループ活動、物産展でお茶の接待などを行っている。
- ・ 個人的な外出旅行、同窓会に行ったとき、まちの駅の地図や名刺を出して説明し話の種にしている。メールでまちの駅のホームページを知らせている。

#### <まちの駅になったメリット、デメリット>

##### ーメリットー

- ・ 市役所を含む、異業種の人との協力、情報交換、個人商店では機会の少ない会合やイベントに参加ができる点。
- ・ ウォーキングのスタンプラリーなどで来店者が増えた。
- ・ 新聞、テレビ、ラジオでとりあげられ、商店の宣伝になっている。
- ・ パンフレット、看板、ラック、地図、絵葉書など資料が入手しやすくなった。
- ・ まちの駅ネットワークが全国1400以上になり、他地域からの問い合わせ、交流が増えた。
- ・ まちの駅ネットワークの一駅として、対外的な信用が得られた。

##### ーデメリットー

- ・ 駅数が多くなると交流がしにくくなる。
- ・ 各駅の取り組みに温度差がある。

#### <これからの活動>

- ・ 今年、「静岡県まちの駅ネットワーク」が発足したが、これからの交流、発展が一つの課題である。

### 3.3.3.4 「富士本町ど真ん中」

#### (1) 実施概要

日時：平成21年8月18日（火） 午後4時から午後5時10分まで

場所：「まちの駅 富士本町ど真ん中」

講師：「富士本町ど真ん中」 駅長 和田 美枝子 氏

#### (2) ヒアリング内容

##### <富士本町ど真ん中の概要>

- ・ 「富士本町ど真ん中」は富士本町商店街の真ん中にあるお店である。雄大な富士山が正面に見える店、昔ながらの乾物をはじめ厳選された食材を取り扱っており、地元のお客様の笑顔溢れる食の情報スポットである。またカルチャースクールも開講している。



##### <まちの駅の依頼を引き受けた理由>

- ・ 店は商店街のど真ん中にあり、お店にはいろいろな商品があって、お客様が訪れやすいと思った。

#### <まちの駅になった時期>

- ・ 2005年（平成17年）から実験駅としてスタート。

#### <まちの駅としての活動・サービス内容>

- ・ まちの駅として各施設への道案内をしている。
- ・ パンフレットを設置している。
- ・ JR企画ウォーキング事業等の参加者が店の前を通る時、お茶をサービスしている。

#### <他のまちの駅との交流について>

- ・ まちの駅同士の交流会には、忙しくて余裕がないため、頻繁には参加できておらず、年に2回程度の参加である。
- ・ 他地域の「まちの駅」との共同イベントとして東京の全国大会で名産品〈桜えび〉を出店した。また、異業種交流によりカルチャーショックを受けた部分もあるが、色々なことを感じる事ができた。
- ・ ブロック会議が月1回開催されている。最近出席が悪くなって来ているが、できることから少しずつが望ましいと考えている。

#### <まちの駅への来客数と地域とのつながり>

- ・ まちの駅はお休み処というイメージでみんなに思われている。お客さんが少し多くなった。訪問客が定期的に来ている。お弁当を食べていく人もおり、サロンのようになっていく。
- ・ まちの駅と大学が一体となったイベントも行われている。具体的には、オープンキャンパスで米の粉のロールケーキを焼いてあげたこともある。一方、「かりがね祭り」では、学生にボランティアを頼んだ。

#### <まちの駅になったメリット・デメリット>

##### ーメリットー

- ・ まちの駅同士の交流を持てる。
- ・ 外から来た人との人的交流を持つことができる。
- ・ まちの駅としてのイベントに出店して、お店の知名度が少し上がった。

##### ーデメリットー

- ・ 特になし

### 3.3.3.5 「癒し所 たたみの宿」

#### (1) 実施概要

日時：平成21年8月18日(火) 午後5時30分から午後6時

場所：「癒し所 たたみの宿」 (株)ホテル中島

講師：「癒し所 たたみの宿」 駅長 吉川 隆之 氏

#### (2) ヒアリング内容

##### <まちの駅を引き受けたきっかけ>

- ・ 「できる範囲で身の丈でいい」ということなので入った。人が好きで、人と話すと人から与えてもらえるものが多いため。

##### <過去に参加したイベント>

- ・ 全国大会のバスツアーである地域巡りツアーに参加した。
- ・ JRウォーキングや「あるけあるけ」というウォーキングイベントに協力している。そこではバナナやウーロン茶、麦茶などを提供した。
- ・ 東京で開催した全国大会にも参加した。夕食会に参加できなかったため、つながりを持つことが出来なかったのは残念である。
- ・ 売上を第一に考えない。売り上げよりも交流などによる心の喜びが大切である。



##### <富士市で行われた全国大会について>

- ・ 富士市の全国大会では宿泊施設としてかかわった。また送迎のためのマイクロバスを運行した。
- ・ 全国大会があるということで、大会前から他地域と交流が出来た。

##### <富士市について>

- ・ 今まで富士市は製紙工場などの企業に頼っていた。これからは市長がスポーツや観光など大きな大会を持つことが大切であると考えている。
- ・ 富士山が近すぎるからこそ、そのありがたみがわからない。大事にするならもっと富士山が見える部屋があってもいいはずである。そのような外と内の違いも考えることが大事ではないかと考えている。
- ・ 富士の商工会などの長は大企業の人ばかりで一般の人の考え方と異なる点がある。市民目線も重要と思われる。

##### <問題点・課題>

- ・ 生涯学習の仕事もしているのでそれと重なってしまっていて大変である。
- ・ まちの駅のメンバーの温度差。モノを売る店だけ集まれば考え方が合うので意思疎通が図りやすいが、モノを売る店と売らない店の考え方の違いをどう埋めるかが課題である。
- ・ ただ名前だけのようなまちの駅を、時間をかけながら共に参加するようにしていかななくてはならない。



### 3.3.3.6 「ちょっと一息・左富士」

#### (1) 実施概要

日時：平成21年8月19日(水) 午前8時45分から午前9時10分

場所：「ちょっと一息・左富士」 影嶋酒店

講師：「ちょっと一息・左富士」 駅長 影嶋 江美子 氏

#### (2) ヒアリング内容

##### <まちの駅を引き受けたきっかけ>

- ・ 市からの要請で引き受けた。人と触れ合うことが好きで、無理をしなくていいということで引き受けた。



##### <まちの駅に対する考え方>

- ・ まちの駅の醍醐味は人の話を聞けるということである。
- ・ まちの駅を引っ張って行ってくれる人についていく気持ちである。

##### <仕事について>

- ・ 商店だけでは生活が難しいが、仕事をしっかり頑張っていれば周りが助けてくれる。
- ・ 信頼関係がとても大切である。

##### <まちの駅名の由来>

- ・ 東海道を東京から京都に向かう場合、富士山は右手に見えるが、この左富士のお店がある数100mのみ左手に見えるため。

##### <その他のお話>

まちの駅の話ではないが、以下のような人生のお話も聞かせて頂いた。このような話が聞けるということもまちの駅の利点ではないかと思う。

- ・ 生きる目的は人の喜びである。地位や名誉、お金ではないということ。
- ・ 1本の筋にあわせていけば盛り上がるということ。
- ・ 人と心の交流が一番の喜びであるということ。
- ・ 共に協力しあうことでお互いよい方向にいけるということ。
- ・ 商店街と跡継ぎのこと。

### 3.3.3.7 「憩いの茶の間」

#### (1) 実施概要

平成21年8月19日(水) 午前9時30分から午前10時

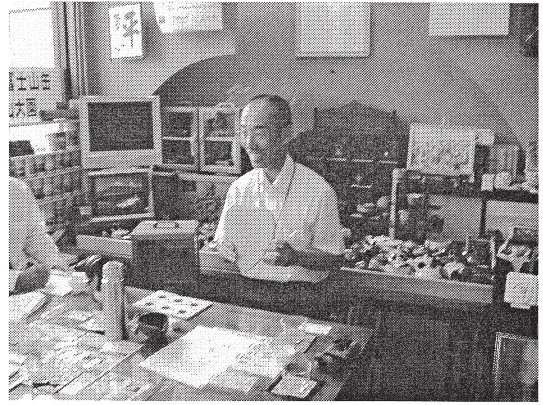
場所：「憩いの茶の間」 (株式会社 山大園 本店)

講師：株式会社 山大園 本店 渡辺 栄一氏

#### (2) ヒアリング内容

#### <憩いの茶の間について>

- ・ 山大園本店にあるまちの駅でお茶の販売をする一方で、まちの駅の駅長をしている。
- ・ 駅長さんは、お茶のインストラクターの資格を持っていて、講座も開催している方である。
- ・ 駅長さんはとても電車好きな方で、その関係からまちの駅の切符の作成を企画し、現在は1枚100円で販売をしている。
- ・ また店内には沢山の電車の模型が展示されていた。



#### <まちの駅の主な活動>

- ・ お手洗いや休憩所や交流の場の提供をしている。
- ・ 日本茶のインストラクターということで、年に40~60回ほど行っているお茶の講座の中で、生徒の方々にまちの駅について紹介などを行っている。
- ・ 趣味でやっている電車を見に来た人達にもまちの駅のことを紹介している。

#### <まちの駅のイベントへの参加>

- ・ JRウォーキングツアーというJR主催のイベントで900人の参加者にお茶を出すサービスをした。

#### <まちの駅になった動機>

- ・ 元々電車が好きで、駅長というものに憧れていたのもまちの駅の駅長になりたかったから。

#### <まちの駅になってのメリット・デメリット>

##### ーメリットー

- ・ 自分が楽しんでやれるということ。自分がまちの駅の活動を楽しんでやれば、それがお客様にも伝わりお客様も楽しくしてくれる。そして外部効果としてリピーターもできてくれる。

##### ーデメリットー

- ・ 特になし。ないということは逆に言えば、まちの駅をやることにそれだけ負荷がないということである。そうではなくては続けていくことなどできない。

#### <駅長の考察>

- ・ 専門店はまだ商品をおいただけでは負けてしまう。だからこそ、お客様の役に立つようなことを考える必要がある。そして迷ったら、まず何事も実行してみることで、そしてどんなことでも受け入れて動いてみるのが大切である。
- ・ 実際にお客様と面と向かって会って話をする、何事も真面目に愚直に一生懸命すること、どんなことにも心をこめてやること、そうすれば周りの人も理解をしてくれるはずである。そのような考え方はまちの駅に対しても同じことである。

### 3.3.3.8 「日本一の駅」

#### (1) 実施概要

日時：平成21年8月19日（水） 午前10時20分から午前10時50分

場所：「日本一の駅」（富士山専門ギフトショップ東海道表富士）

講師：「日本一の駅」 駅長 西川 卯一 氏

#### (2) ヒアリング内容

##### <「日本一の駅」について>

- ・ 新しく「富士まちの駅ネットワーク」に加わったまちの駅である。
- ・ 駅長の西川卯一氏は、富士山専門のショップを経営する傍ら駅長をしている。富士山と地元のことについて詳しく富士山の現状について聞かせていただいた。



##### <まちの駅の主な活動>

- ・ お手洗いや休憩所として、場の提供をしている。
- ・ 富士山や地域についての情報提供をしている。

##### <まちの駅のイベントへの参加>

- ・ ビール列車という岳南鉄道さんが行っているイベントの折り返し地点で、おつまみやお土産の販売をした。

##### <まちの駅になったきっかけ>

- ・ 平日にウォーキングしている人の中には、ガイドがないから分からないという人も多いため、そのような人達に少しでも役に立てればと思い駅長になった。

##### <他のまちの駅と共同での連携販売等について>

- ・ 富士まちの駅ネットワーク全体としてタオルや手ぬぐい、カレンダーを作っていて、各駅で販売している。

##### <まちの駅になってのメリット及びデメリット>

###### ーメリットー

- ・ まちの駅としてのイベントに出店してほしいという話をもらえることでお店の知名度も少しは伸びてきている。

###### ーデメリットー

- ・ 特になし。地元の人がまちの駅が何なのか分かっていないと感じるときがある。また看板だけなのでという感じもあるので、いいイメージを保っていければよいと思う。

##### <まちの駅による地域変化について>

- ・ 行政がまちの駅を立ち上げたことで、まちの駅を視察するために地域を訪れる人が増えてきたと思う。

### 3.3.3.9 「吉原本宿」

#### (1) 実施概要

日時：平成21年8月19日（水） 午前11時10分から午前11時40分

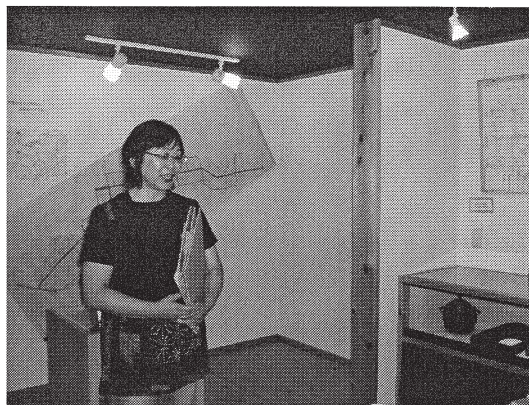
場所：「吉原本宿」（鯛屋旅館内）

講師：「吉原本宿」 専属スタッフ 水谷 利江子 氏

#### (2) ヒアリング内容

##### <「吉原本宿」について>

- ・ 吉原本宿というまちの駅は鯛屋旅館の一部を借り、「タウンマネジメント吉原」という民間団体が運営している駅である。
- ・ 「吉原本宿」はまちの駅加入前から地元の交流拠点としての活動をされていました。
- ・ 駅長の水谷利江子氏は、「タウンマネジメント吉原」から専属スタッフとして派遣され、「吉原本宿」を拠点として行われる事業や、来街者・来館者への接客・ご案内をしながら「タウンマネジメント吉原」の一般会員として、時間外の活動にも積極的に参加している方でした。



##### <まちの駅としての主な活動>

- ・ 休憩所やお手洗いの提供。
- ・ 施設の一角を利用して地域の人達に大きな交流の場を提供している。
- ・ 地域の歴史や文化を伝えるために、月1回テーマを変えながら講座をしている。

##### <まちの駅のイベントへの参加>

- ・ 他のまちの駅のイベントに一般客として参加することにより、富士市のまちの駅のイベントを人に勧めやすくなった。実際に自分自身が体験しないとどのようなイベントなのか、人に教えることができないという点を感じた。
- ・ 出店をしてみて、地域の人がまちの駅のイベントについて、また、まちについて知らない人がいるということが感じられた。また参加してくれた人がどのようなことに興味があるのか知ることができた。

##### <まちの駅になったきっかけ>

- ・ もともと「吉原本宿」は、まちづくりの拠点として来街者・来館者へのおもてなしの活動をしており、まちの駅と合致する点が多かったので参加した。

##### <外部への情報発信>

- ・ 「吉原本宿」オープン当初、外部への情報提供機能を持っていなかったもので、専属スタッフの水谷さんが、全く個人のブログとして<<鯛屋旅館『吉原本宿』勝手に応援団！！。。>>を立ち上げ活動をバックアップ、イベントや街の紹介をしてきた。また、まちの駅ネットワークのブログができるまで、HPやブログをもたないまちの駅についても紹介してきた。

<まちの駅になってからの課題>

- ・ 「鯛屋旅館『吉原本宿』」は、創業300年余りの歴史を持つ老舗旅館である「鯛屋旅館」の一部を改装し、特産品販売や情報発信機能を持つ施設として、2006年3月11日にオープンした。これを運営しているのが、「富士TMOタウンマネジメント吉原」という吉原地区の商業者・NPO関係者・一般市民等がメンバーとなったまちづくり組織で、歴史講座や寄席や各種体験講座を開催している。これら本来の事業と、まちの駅の活動とあわせてかなりの活動内容となるため、日常のお客さまへのおもてなしの心が疎かになってしまわないよう注意していかなければならないと考えている。

<全国大会（富士大会）で活動>

- ・ オリジナル商品の展示を行った。
- ・ 分科会。ミニシンポジウムにてまちの駅の事例発表を行った。
- ・ 懇親会の司会を担当した。

### 3.3.3.10 「おもいやりご案内所」

(1) 実施概要

日時：平成21年8月19日（水） 正午から午後12時30分

場所：「おもいやりご案内所」 （富士山観光交流ビューロー）

講師：富士山観光交流ビューロー

事業推進マネージャー

松村 岳典 氏

事業推進室 ホスピタリティ マネージャー

金指 満理子 氏

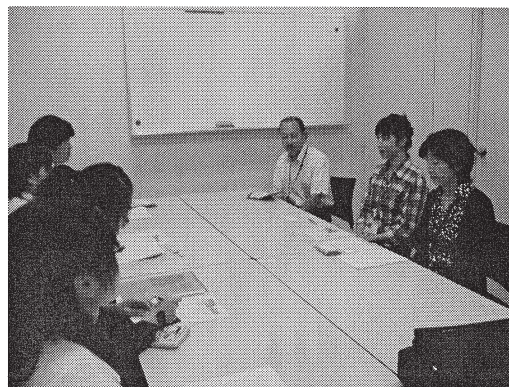
総務担当

菊池 由美 氏

(2) ヒアリング内容

<「おもいやりご案内所」について>

- ・ 市の施設であるステーションプラザF U J I（新富士駅内）にあるまちの駅であり、観光ビューローの職員が駅長を務めている。
- ・ 新富士駅観光案内所ということで、まちの駅としても富士の観光情報の提供が主になっている。



<まちの駅としての主な活動>

- ・ お手洗いや休憩所の提供をしている。
- ・ 地域の観光の詳しい情報提供と案内をしている。

<まちの駅のイベントへの参加>

- ・ 歴史や地域にまつわるスタンプラリーをした。
- ・ クイズ大会におけるクイズの問題の内容を、イベントの開催にあたり提供した。

<まちの駅になったきっかけ>

- ・ ネットワークが広がれば富士市に来てくれる人に有益な案内をすることができるよう

になるので、そのネットワークを強化したかったから。

<他のまちの駅間での連携販売>

- ・案内所で絵はがきを作っていて、それを各まちの駅で連携販売をしている。

<観光案内所としてこれからのまちの駅にできること>

- ・観光案内所であるため、観光や富士市の情報をたくさんもっている。そして、案内のノウハウを富士市まちの駅全体に伝えることができれば、他のまちの駅自身が小さな案内所としてより一層機能すると思われる。

### 3.3.4 「富士まちの駅ネットワーク」の特徴的取組

「富士まちの駅ネットワーク」の特徴的取組として、以下の6つがあげられる。

#### (1) 行政と民間が協力的

「富士まちの駅ネットワーク」は、富士市が観光事業に力を入れていることから、行政も一体となった活動をしている。また、民間側も代表と副代表を中心に、積極的な活動を行っている点が特徴的である。

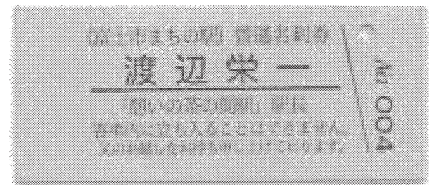
#### (2) JRウォーキングの実施

これはJRが企画する、駅と駅の間、約10kmを歩いてもらい地域の魅力を感じてもらおうというものである。富士地域では毎回1,500~2,000人が参加しており、まちの駅は休憩所を提供する形で協力している。

#### (3) 共同商品開発

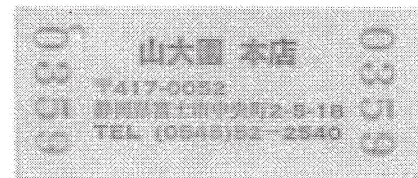
「富士まちの駅ネットワーク」では、日本手ぬぐい、タオル、カレンダー、まちの駅の切符、桜エビコロックなど商品開発も行っている。

このような商品開発を行っているまちの駅ネットワークは、昨年度のアンケート調査でもほとんど見られず、特筆すべきことである。



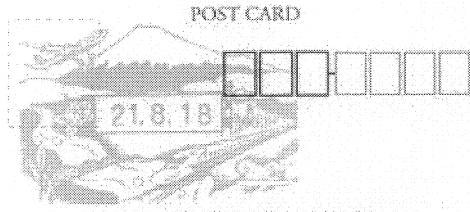
#### (4) 硬券切符

各まちの駅が名刺代わりとして1枚100円で硬券切符を販売している。今ではあまり見かけないレトロな切符をコレクターの方が買っていくとのことだった。



#### (5) 美人証明書、男前証明書

これは新富士駅観光案内所が発行している証明書である。富士山を見ることが目的で富士市に来ても、悪天候で見ることが出来ないとき、富士に来てもらった記念としてこの証明書を発行している。



### べっぴん証明書

今日は、日本一の美女である富士山があなたの姿に魅惑し、その姿を隠してしまいました。ここにあなたがべっぴんであることを証明します。しばらくすると、富士山のお化粧が仕上がります。またのお越しをお待ちしております。

富士市市長 尚

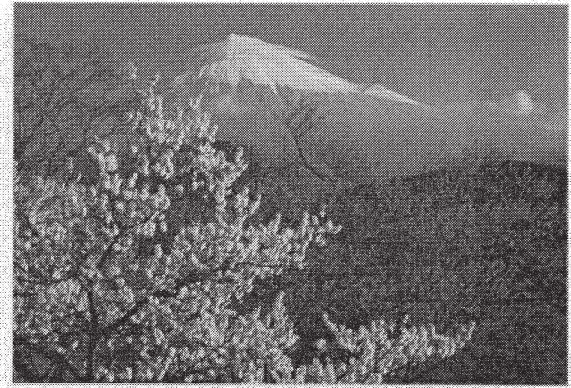
### Charming Visitor Certificate

Thank you for coming to visit the city of Mt. Fuji.  
Japan's most beautiful Mt. Fuji is also well known as a shy mountain and sometimes hides her face. However, she knows that you are a charming person.  
She looks forward to seeing you again soon.

富士市市長 尚

Mayor of Fuji City

第2回 富士山百景写真コンテスト エリア賞【甲斐の春】  
撮影場所：岩本山公園



## (6) 静岡まちの駅ネットワーク

今年、由比町、焼津市、岡部町と「静岡まちの駅ネットワーク」を立ち上げた。これは富士山静岡空港が出来たため、県内の観光のネットワークにするという役割と全国大会で出来た関係の維持のためである。年に1回ずつ順番に各地で集まる予定である。今年は県のアドバイザーを呼び、お互いどのような事をやっているかという情報交換をした。

県内ではまちの駅がなんであるか認知されつつあるので、県内のまちの駅は増えていくのではないかと思われる。伊豆も興味を持っているそうである。

## 3.4 会津まちの駅

### 3.4.1 まちの駅概要

会津地域のまちの駅は、空き店舗を利用したまちの駅の開設から始まった。地域内の17箇所のまちの駅に呼びかけ、平成17年6月に「会津まちの駅連絡協議会」が設立された。その後、さらなる地域の活性化を目指して平成20年6月に商工会議所からNPO法人「会津地域連携センター」として独立した。その活動のひとつとしてまちの駅の運営を行っている。こちらの会津地域連携センターの代表が稲生孝之氏で、この方を中心として会津地域まちの駅は運営されている。

### 3.4.2 選定理由

会津地域は長岡市と歴史的にもつながりがある地域である。しかし経済基盤は長岡市とはまったく異なっている。長岡市はもともと製造業や商業を中心とした産業の町として

発展してきた。それに比べて会津地域は観光の町としての特色を強く持っている。まちの駅の特徴から観光に結び付けづらい印象を持つが、会津地域は観光とまちの駅との融合をうまく行っている。いったいどうやってまちの駅を運営しているのか。また観光地ならではのまちの駅とは一体どういう活動をしているのか。その部分を見極めるためにヒアリング調査を行った。

### 3.4.3 ヒアリング結果概要

#### 3.4.3.1 「まちの駅 会津藩」

##### (1) 実施概要

日時：平成21年8月27日（木） 午前11時40分から午後0時50分

場所：「会津武家屋敷」

講師：「会津武家屋敷」 統括部長 岩渕 忠清 氏

##### (2) ヒアリング内容

###### <会津武家屋敷について>

- ・ 会津武家屋敷は、会津の観光に関する交流拠点となっている。ローカル地域の情報や観光に関する情報を積極的に収集し、観光客だけでなく、地元の人々に対しても情報を提供している。また、宿泊の予約なども請け負っている。



###### <まちの駅の全体会議について>

- ・ 月1回のペースで実施されている駅長会議には参加しており、案内人の研修も行っている。
- ・ 会津という地域はやはり「観光」への意識が強く、各店舗が各々の営利とまちの駅の活動とを結び付けようとしており、「まちの駅」としてのネットワークを築くにはまだまだ地道な努力が必要である。

###### <まちの駅間の交流状況について>

- ・ 会津武家屋敷は観光に関するまちの駅との交流が多い。
- ・ 他業種のまちの駅との交流が今後の課題である。

###### <まちの駅の活動による地域貢献>

- ・ まちの駅を地元の人に知ってもらうことがまず必要だと考え、朝のクリーン活動を行うことによって生まれる地域の人との挨拶から始めた。また、貢献というスタンスではなく「溶け込む」というスタンスを大事にしている。
- ・ 地域貢献の観点で言えば、夕方の一定時間、武家屋敷をライトアップすることによって生徒の下校時の防犯に役立ててもらっていることが挙げられる。
- ・ 地域住民、観光客に「武家屋敷に行けば・・・」という意識を持ってもらうことが「まちの駅」の存在意義に繋がるのではないかと考えている。

###### <マスコットの「べこのん」に関する商品について>



- ・ 武家屋敷ではすでに「べこた」という他業者の商品を扱っており、武家屋敷では扱っていない。

<長岡地域のまちの駅に求められるリーダー像についての助言>

- ・ リーダーとなる人物は情報に敏感であり説得力のある人物が適任であると思われる。大前提は地元のことが好きであるということである。

### 3.4.3.2 「お城の駅」

#### (1) 実施概要

日時：平成21年8月27日（木） 午後1時50分から午後2時20分

場所：「鶴ヶ城観光案内所」

講師：「財団法人 会津若松市観光公社」

観光推進企画グループ営業リーダー 佐野 静也 氏

#### (2) ヒアリング内容

<お城の駅について>

- ・ 会津地域の代表的な観光地点の一つである鶴ヶ城（会津若松城、会津城）に拠点を構えるまちの駅である。お城に関する情報提供を観光客だけでなく、他県に対しても積極的に行い、観光客の誘致に努めている。



<まちの駅間の交流状況について>

- ・ 交流というより連携した活動として、鶴ヶ城に訪れた観光客に、設置してあるレンタサイクルなどを利用してもらうことにより、他のまちの駅に流れるように配慮をしている。
- ・ 地域連携センターが中心となり「まちの駅」の活動を行うことで近隣地域への情報発信が行いやすくなった。会津の歴史等について広く情報発信をし、それによって地域の皆様にご訪問くだされば、なお良いと考えている。

<まちの駅の活動による地域貢献>

- ・ 観光事業がメインで首都圏からの顧客獲得が営業の中心であるため、必ずしも「地域活性化」に重点をおくことはできない。

<長岡地域のまちの駅に求められるリーダー像についての助言>

- ・ まちの駅に専属で力を入れることができる人がいれば、まちの駅として発展・強化されていくのではないかとと思われる。

### 3.4.3.3 「NPO法人 会津地域連携センター」

#### (1) 実施概要

日時：平成21年8月27日（木） 午後3時から午後7時

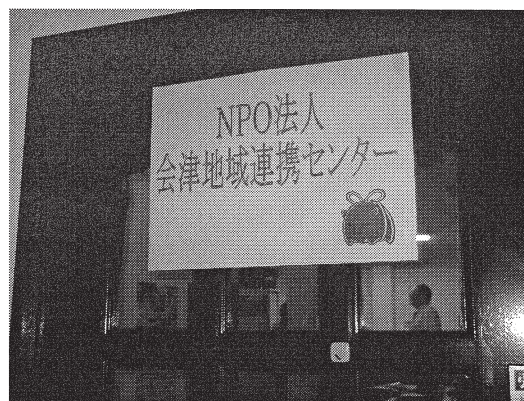
場所：「NPO法人会津地域連携センター」

講師：「NPO法人会津地域連携センター」 理事長 稲生 孝之氏

#### (2) ヒアリング内容

##### <NPO法人 会津地域連携センターについて>

- ・ 平成20年6月に商工会議所からNPO法人として独立した。代表者の稲生孝之さんを中心としてまちの駅間の交流拠点、交流サロンを提供しまちの駅間の交流を促進している他、実証実験として平成21年8月～11月の期間会津若松観光物産協会インフォメーションデスクも併設していた。こちらのまちの駅では、現在構想中の案や、取り組みなどを重点的にヒアリングした。



##### <これからの取り組み>

- ・ 道の駅は中心街から外れており、そこにまちの駅が加われば何かできるのではないかと考えている。例えば、道の駅に車を置いてシャトルバスで中心地へ移動しての観光など。
- ・ 2009年10月～11月には「いにしえ夢街道」の社会実験が行われる。
- ・ 現在は大きな事業の中心にまちの駅をちりばめてネットワークを築く初期段階である。

##### <駅長会議について>

- ・ 鯉江ゼミのメンバーも駅長会議に参加させて頂いた。
- ・ 駅長会議とは会津地域内のまちの駅の駅長が集まり、意見交換や情報交換、会津地域についての勉強会やメンバー同士の交流会などを行う集まりのことである。メンバーの参加率はとても高く、積極的に発言を行ったりしていた。メンバーの近況報告に特に重点を置いており、すべてのメンバーに発言の機会を与えることで情報の偏りを防いでいる。今回のヒアリングでは、観光に関する報告が特に多かった。

##### <長岡地域のまちの駅に求められるリーダー像についての助言>

- ・ 長岡地域だけでなくすべての地域に言えることであるが、中心になる人物が大きなイベントを企画し、他の駅を引っ張っていく必要がある。その上で、また同じテーブル・土台に上げていくことが重要となる。同じベクトル（方向性）と息切れしない情熱が不可欠である。

### 3.4.3.4 「まちなかの駅」

#### (1) 実施概要

日時：平成21年8月28日（金） 午前10時から午前11時30分

場所：「会津若松観光物産協会」

講師：「会津若松観光物産協会」 事務局次長 石井 裕之 氏

#### (2) ヒアリング内容

##### <会津若松観光物産協会事務局について>

- ・ こちらは、観光客に対して観光の情報を提供する業務を主に担っている。
- ・ その中でも特に大きな活動といえばJRとの提携による観光PR活動である。平成17年度にJRと連携して観光PRイベントを行い大成功に導いた。それらが地域の変化につながり、商品やサービスの販売だけでなく「おもてなしの心」を育むことに繋がったということである。
- ・ また、極上の会津プロジェクト協議会と連携しながら、質の高い観光サービスの提供に関係者と共に取り組んでいる。
- ・ 地元を知ることがまず大事と、地域の情報などを調べ、より地域に根差した観光PRを目指している。



##### <まちなかの駅間の交流状況について>

- ・ 地域振興として横のつながりの大切さを認識することが必要になってくる。
- ・ 現段階では全体としての繋がりが弱い。駅長会議を通して繋がりを強くしていくこと、情報を共有化していくことが大切になってくる。

##### <これからの取り組みについて>

- ・ これからは、1つの店舗（点として）だけのPRではなく、各店舗（面としてのPR）による地域ブランド力の強化が必要になってくる。そこで地域としての拠点（会津ならば会津地域連携センター）の必要性が生まれ、同じ質のおもてなしを提供できるようになってきた。
- ・ 交流人口を取り入れるために適確な情報を提供する必要がある。そこにまた一つまちなかの駅としての存在意義が生まれてくるのではないか。

##### <長岡地域のまちなかの駅に求められるリーダー像についての助言>

- ・ 成功するかどうかは、中心となる人物のコーディネート力にかかっている。
- ・ 会津のまちなかの駅の特徴として稲生理事長という存在が挙げられる。この方をモデルに、学生が中心となり、学生本来のがむしゃらな気持ちで引っ張ってってみてはどうか。

### 3.4.3.5 「手打ちそばの駅」

#### (1) 実施概要

日時：平成21年8月28日（金） 午後3時から午後3時40分

場所：「桐屋・夢見亭」

講師：「桐屋・夢見亭」 唐橋 佐知子 氏

#### (2) ヒアリング内容

##### <手打ちそばの駅について>

- ・ こちらは他のまちの駅とは違い、特に観光についての情報発信などは行っていない通常の飲食店である。
- ・ しかし、会津地域のまちの駅の中でも特に積極的に活動に参加しており、またとても協力的だったため今回ヒアリングに赴くこととなった。
- ・ 店内には海外からの観光客向けに翻訳されたメニューやガイドマニュアルなどもあり、観光を意識した営業も行っている。
- ・ こちらは会津まちの駅が行ったイベントの中でも興味深かった【スタンプラリー】についてお話を伺うことができた。



##### <スタンプラリーについて>

- ・ スタンプラリーは夏冬の2回開催されている。冬は観光客自体が少ないが、子連れの割合が高かった。また当選者には名産品の詰め合わせを贈った。
- ・ ガイドブックの評判がとてもよかったそうである。
- ・ 夏のスタンプラリーでは、パンフレットの減り方が早かった。パンフレットの特徴としては各店舗・まちの駅の駅長の顔が載っており、それが観光客への安心へと繋がったのではないかと。

##### <まちの駅に参加しての印象>

- ・ 顧客への情報伝達がスムーズになり他店との繋がりが強くなった。
- ・ また顧客への一歩踏み込んだおもてなしが可能になった気がする。
- ・ 他地域への情報伝達がスムーズになり広がりを持てるようになったことなどが挙げられる。
- ・ 駅長会議におけるオープンな印象が気に入っている。

### 3.4.4 その他見学のためのまちの駅

#### 3.4.4.1 「まちの駅 会津」

実施概要

日時：平成21年8月28日（金）

午前11時30分から午前11時45分

場所：「会津伝承館」

- ・ 会津の名産品などを販売している。入り口にはベンチなどが置いてあり、まちの駅の機能の一つである休憩機能を十分果たしているまちの駅であった。
- ・ パンフレットなども入り口に設置しており、来客者の目をととても引いていた。



#### 3.4.4.2 「まちの駅 飯盛山」

実施概要

日時：平成21年8月28日（金）

午後0時20分から午後0時35分

場所：「飯盛山観光案内所」

- ・ こちらは詰め所が設置されており、観光案内を行う案内人が常駐していた。
- ・ ベンチやトイレなども設置されており、まちの駅の機能を十分果たしていた。



#### 3.4.4.3 「まちの駅 白虎隊」

実施概要

日時：平成21年8月28日（金）

午後1時10分から午後2時10分

場所：「飯盛山観光案内所」

- ・ こちらは飯盛山のふもとに設置されているまちの駅である。お土産や、昼食などの提供を行っている。
- ・ 見学のために留めたまちの駅であったが、こちらの写真撮影要請に快く応じていただき、見学のために留めたまちの駅の中でも特に熱意が感じられたまちの駅であった。



### 3.4.4.4 「まちの駅 土きど器の駅」

#### 実施概要

日時：平成21年 8月28日（金）

午後 2時30分から午後 2時50分

場所：「会津慶山焼」

- ・ こちらは会津慶山焼と呼ばれる焼き物を販売している店である。
- ・ こちらの主人がまちの駅の駅長となっている。当日はご主人が不在であったが、ご家族の方より様々なお話を伺うことができた。
- ・ こちらは陶芸教室が併設されており、こちらで慶山焼を作ることができる。



### 3.4.5 「会津まちの駅」の特徴的取組

「会津まちの駅」の特徴的取組として、以下の4つがあげられる。

#### (1) 各「まちの駅」間のレンタサイクル活動

「会津まちの駅」には自転車貸出し施設が設置されており、無料レンタルができる機能である。返却は、一部のまちの駅でも可能となっている。観光地である会津若松では、観光客に利用してもらうことで、サービス向上を図っている。

#### (2) 夏冬期間の「まちの駅」パスポートの取り組み

まちの駅パスポートは地域内の「まちの駅」を紹介するためのものである。主に、施設概要などが掲載されており、各「まちの駅」において無料で配布されていた。観光案内のパンフレットとして利用する方が多いということであった。

また、「まちの駅」間でのスタンプラリーも実施し、景品なども準備したということであった。

**スタンプラリー台紙** スタンプは同じ番号の時刻に押しください。スタンプは1人につき1冊1回のみの使用となります。(まためてのスタンプはできません)

|    |    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 1  | 2  | 3  | 4  | 5  | 6  | 7  |
| 8  | 9  | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 |
| 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |
| 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 |
| 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 |
| 36 | 37 | 38 | 39 | 40 | 41 | 42 |
| 43 | 44 | 45 | 46 | 47 | 48 | 49 |
| 50 | 51 | 52 | 53 | 54 |    |    |

**AIZU PASSPORT**  
～愛ど焼のパスポート～  
会津まちの駅・道の駅  
会津連携ステーションと  
天地人ガイド  
スタンプラリー実施中!! 割引特典付!!

**お問い合わせ** 事務局・NPO法人 会津地域連携センター  
会津若松市馬場町1-20ヤマトビル2F  
TEL/FAX 0242-22-3633  
E-MAIL aizu-renkei@bekonon.com  
WWW www.bekonon.com  
会津若松観光物産協会 インフォメーションデスク  
TEL 0242-98-8043  
平成21年度福島県地域づくり総合支援事業補助金事業

### (3) 駅長会議の積極的な開催、および各駅長の積極的な参加

「会津のまちの駅」の駅長会議は、メンバーの参加率がとても高く、積極的に発言を行ったりしていた。メンバーの近況報告に特に重点を置いており、すべてのメンバーに発言の機会を与えることで情報の偏りを防いでいる。

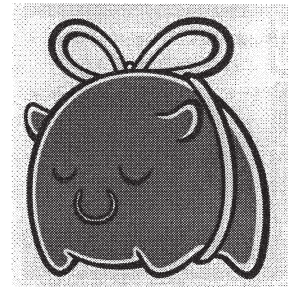
今回のヒアリング時に駅長会議に参加させて頂いた。会議の内容は、観光に関する報告が特に多かった。



### (4) マスコットキャラクター「べこのん」によるPR活動。

会津地域ではマスコットキャラクターによるPR活動を行っていた。全国から237通の応募があり大阪市の女性が作成した「べこのん」が大賞となり使用されている。

パスポートに記載するだけでなく、グッズ（ストラップ、キーホルダー、マグカップ、灰皿など）として、今後本格的に販売する予定である。



## 3.5 まちの駅ネットワーク本庄

### 3.5.1 まちの駅概要

まちの駅ネットワーク本庄は、現「まちの駅ネットワーク本庄」の代表で「プラス思考の駅」の駅長である阿奈さんが中心となって、平成18年10月に市の観光協会と商工会議所の協力を受けて立ち上がった民間主導のまちの駅である。1次の公募により旧本庄市で31駅が集まった。その後1月に児玉地区と旧本庄地区の合併があり、6月2次募集を行い、19駅追加し、現在50駅になっている。現在まちの駅の一つとして市役所等行政機関もあるが、支援等は行われておらず、民間主導のネットワークである。

### 3.5.2 選定理由

本庄市地域の選定理由としては、本庄市では「まちの駅」自体を独立させようとしており、民間が主体となっていることが挙げられる。行政が主体となって取り組んできた長岡市との比較をするという意味もある。

また、本庄市と児玉町が合併しており、地域の一体化をどのように進めているかを把握するため等の理由で選定した。

### 3.5.3 各まちの駅のヒアリング結果概要

#### 3.5.3.1 「おもてなしの駅」

##### (1) 実施概要

日時：平成21年9月3日(木) 午前10時30分から午前11時10分

場所：「おもてなしの駅」

講師：「おもてなしの駅」駅長、まちの駅ネットワーク本庄の事務局長

万里小路 正光氏

##### (2) ヒアリング内容

<本庄市まちの駅の始まりと行政との関わり>

- ・ ネットワーク立ち上げ時は、市の観光協会と商工会議所の協力を得たが、現在は行政主導ではなく民間主導で行っている。
- ・ 平成18年に公募により、まず旧本庄市で31駅が集まった。その後、1月に児玉地区と合併し、翌年6月2次募集を行い、19駅追加され、現在50駅になっている。



<まちの駅同士の交流について>

- ・ 月1回駅長会議の場を持ち、その中で映画上映や懇談会、グループディスカッションといったことも取り入れ、交流を進めている。
- ・ 幹事駅を13か所つくっている。その幹事駅でスタッフ会議を行って主な決定をし、全体会議で承認をもらっている。
- ・ 講演会や勉強会を年1～2回行っており、講演会は一般の方も交えて行われている。平成19年は鹿沼市、平成20年は長岡市・見附市に、平成21年は会津若松市に視察に行ってきた。
- ・ 定期的ではないが、全体会議欠席者に資料を届ける時など、電話だけでなく事務局が個別に訪問し、直接顔をあわせている。
- ・ 駅間交流連絡網を作り交流をしている。

<まちの駅ネットワーク本庄の活動について>

- ・ 年会費として、各まちの駅から1万円を集めている。
- ・ 来年早々を目処にNPO法人化を検討している。
- ・ お祭りのときには、まちの清掃や出店をしている。
- ・ 以前は行政が行っていた緑化祭を、まちの駅の植木屋さんが引き継いで春祭りとしてイベントを継続している。そこではまちの駅のブースがあり出店等を行っている。
- ・ 貸し傘制度がある。これは雨が降ってきた時、まちの駅が傘を貸してくれる制度である。返却は本庄地域のどこのまちの駅でもいいというものである。今後、傘を返してくれた時に地域券を出すことを提案したいと考えている。
- ・ JRと観光協会と一緒に「駅からハイキング」というものを行っている。毎回1,500～2,000人が参加している。そこでまちの駅はお茶やお茶菓子のサービス、記念撮影



をするなど、おもてなしのサービスをしている。

- ・ 夏の祇園祭、秋の本庄祭りでも協力している。

#### <他地域との交流について>

- ・ 春祭りには桐生や水上からの参加がある。
- ・ 年間5か所位の地域から視察を受けている。

#### <情報発信について>

- ・ 今後広報誌を作りたいと考えている。
- ・ HPの更新は事務局が行っており、HP管理委員会がある。委員の数は6人である。

#### <まちの駅の利点>

- ・ 外から来た人との人的交流を持つことができる。
- ・ まちの駅同士の交流を持てる。
- ・ まちの駅を通じてグループができ、やりたいことができるようになった。
- ・ いろいろな業種があるので意見交換ができる。
- ・ 人と人との関わりができ、まちを考えていく機会がつけられている。

#### <問題点・課題>

- ・ 異業種の集まりであるから、良い面もあるが、交流が難しい面もある。

### 3.5.3.2 「金屋田んぼの駅」

#### (1) 実施概要

日時：平成21年9月3日（木） 午後0時から午後0時30分

場所：いなか茶屋 金正亭

講師：「金屋田んぼの駅」駅長 田中 信子 氏

#### (2) ヒアリング内容

##### <まちの駅になったきっかけ>

- ・ 児玉の自然が非常に魅力的であるがそれを伝えようという動きがなかったので、まちの駅の話聞き参加したいと思った。
- ・ 児玉が本庄と合併したのを機にまちの駅になった。



##### <まちの駅でのイベントの参加>

- ・ 連絡手段として、メールのやりとりをしている。駅長会議は月末の金曜日の夜のため、商売上なかなか参加できないのが残念である。
- ・ 飲食店の人たちが参加できるようにするにはどうしたらよいか、模索中である。
- ・ 本庄市の春祭りにバーベキューの片づけだけだが参加した。日曜日は法事客も多く、時間を取ることが難しい。
- ・ つみっこ（すいとん）合戦に参加した。

- ・ 2010年1月9日に開催された「第3回新春つみっこ合戦」にて優勝し、マスコミに取り上げられたこともあり、経済効果は非常に大きかった。JRとのタイアップイベント「駅からハイク 七福神めぐり」では、11店×400食、約4000人のにぎわいがあった。(2010年2月追加メモより)

#### <まちの駅になっての感想>

- ・ 児玉地区では、まちの駅が点在しているため、ネットワークとしてはあまり機能していない面がある。まだ外枠ができていないため、形ができてくれればいいと思っている。
- ・ 連携販売や独自のものを作っていきたいと考えている。今まで自分だけで考えてきたが、いろいろなものがあるので様々なアドバイスを得て、周りの人と協力してやっていきたいと思う。本庄と合併したことと、まちの駅ネットワークがきっかけとなってお話ができるようになった。

### 3.5.3.3 「ああ、立花の駅」

#### (1) 実施概要

日時：平成21年9月3日(木) 午後1時30分から午後2時10分

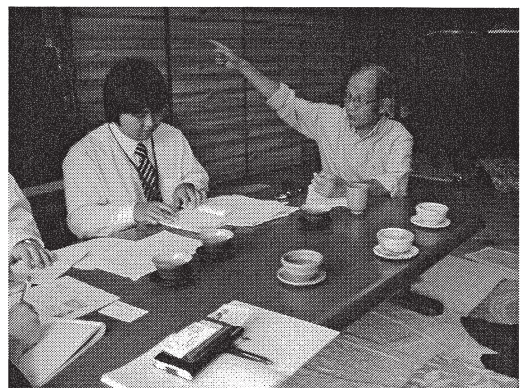
場所：「ああ、立花の駅」 (尺上庵)

講師：「ああ、立花の駅」 駅長 立花 勲 氏

#### (2) ヒアリング内容

##### <「ああ、立花の駅」について>

- ・ 一般の民家で、まちの駅となっている珍しい駅であり、敷地内に、立花さんが自ら作った茶室が設けられていて、一般の人でも入ることができる。
- ・ 立花さんは、児玉地区の代表をしておられ、まちの駅の様々なイベントの主催もしている。



##### <まちの駅としての主な活動>

- ・ 自作の茶室を休憩所として提供している。
- ・ ウォーキング等で訪れた人へのお茶のサービスやお手洗いの提供もしている。
- ・ 千本桜の祭りの際に訪れた人に地域のガイドをしている。

##### <まちの駅のイベントへの参加>

- ・ 春祭りでは、まちの駅コーナーで、タマネギ、ナス、キュウリなどの無農薬の野菜を販売した。評判は上々であった。また、趣味でつくっている魚の剥製の展示もした。
- ・ 立花の駅を中心とし、児玉を紹介するハイキングやバーベキューを、まちの駅ネットワーク本庄の人達と一緒に実施した。

<まちの駅になったきっかけ>

- ・ 仕事を退職後、庭を趣味で広げていったときに茶室やトイレ等も作った。「ああ、立花の駅」の近くには、千本桜という名所があり、その花見客に休憩所やトイレを利用してもらおうと思ったからである。
- ・ この地域は里山で伝統的なものや、文化的、自然的資源がたくさんある。自分たちも獅子舞をやっており、そのようなものを他の地域の人達にも知ってほしいと思っている。

<他地域間との交流についての問題点・課題>

- ・ 予算面や市の協力体制がうまくいかないのが、なんとか市との協力体制を整えて補助金をもらえるようにして、より一層まちの駅を発展させていきたい。
- ・ 市民の、町を活性化したいというボランティアの熱意がうまく行政に伝わってこない。
- ・ 会津へ視察に行った時に、まちの駅に案内人を置く体制は非常に勉強になった。

<まちの駅の活動による地域の変化>

- ・ NPOの活動で、まちの駅とうまく有機的な関係を結べたことはとてもよかった。このような、よい関係を続けていけるようにしたいと思った。
- ・ 合併しても、あまり知られていなかった児玉のよいところを、まちの駅の活動を通して伝えることができた。まちの駅ネットワークは、本庄と児玉の交流の受け皿となっている。

### 3.5.3.4 「スイーツメルヘンの駅」

#### (1) 実施概要

日時：平成21年9月3日(木) 午後2時30分から午後3時15分

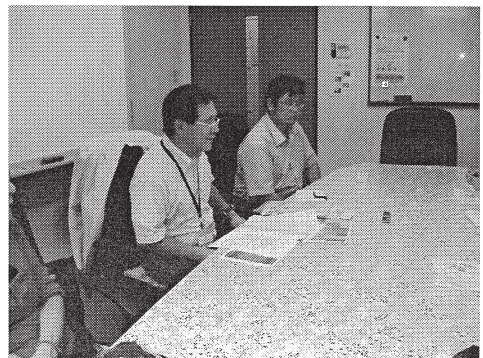
場所：「スイーツメルヘンの駅」(株)シェリエ

講師：「スイーツメルヘンの駅」駅長 藤野 晃一 氏

#### (2) ヒアリング内容

<まちの駅に参加しようと思ったきっかけ>

- ・ 阿奈さんからの紹介でおもてなしの主旨に賛同したことがきっかけである。
- ・ 工場併設のアウトレット店は集客力があり、多くのお客様に地域を紹介することで地域おこしに寄与したいと思い参加した。
- ・ またお菓子を食べながらコミュニケーションを増やしてもらおうと思った。



<今まで参加した活動>

- ・ この間、会議に初めて参加した。阿奈さんや局長といった中心的な人がしっかりしていると感じた。ボランティアであるが、非常に熱心であり驚いた。

<まちの駅活動をして感じたこと、変わったこと>

- ・ 改めて地域を見るきっかけとなり、地域には歴史的遺物や里山の自然景観など観光資源となるいいモノがたくさんあることに気がついた。
- ・ まちの駅の旗を見て、地域の情報を尋ねる人が増えた。

<これから考えていること>

- ・ 深谷市では、『緑の回廊』で町を盛り上げていこうとしている。これも本庄市のまちの駅と同様の考えに基づいている。
- ・ 阿奈さんが育てている菊芋とお菓子のコラボレーションをしていきたいと思っている。まちの駅を含め、地域の他のいろいろなお菓子屋がそれぞれ菊芋を使ったお菓子を作っていたら地域振興の起爆剤となる可能性もあり、面白いことになるのではないかと感じている。
- ・ 地域間でお互いに訪問者・観光客を紹介できる体制を作り、リピーターを作っていきたいと考えている。マスコミを呼び込み地域のPRをしたいと考えている。そのため映画などのロケが出来そうな地点を登録している。

### 3.5.3.5 「プラス思考の駅」

#### (1) 実施概要

日時：平成21年9月3日(木) 午後3時30分から午後4時

場所：「プラス思考の駅」(株)クリエイトANA

講師：「プラス思考の駅」 阿奈 靖雄 氏

「プラス思考の駅」 駅長 まちの駅ネットワーク本庄 代表 阿奈 正子 氏

#### (2) ヒアリング内容

<まちの駅を導入した経緯>

- ・ 以前は商店街おこしをやっていたが、商店街だけでは行き詰ってしまうのでまちの駅をはじめ、地域の人達と共にやっっていこうと感じたから。
- ・ 宇都宮であったまちの駅全国大会に参加して、その後まちの駅の勉強会をした。
- ・ 立ち上げでは商工会議所に協力を依頼し、募集の広告の全戸配布を行い、40件応募があった。そこで説明会を行い、賛同してくれた32駅でまちの駅ネットワークを立ち上げた。その後1駅が減り、合併に伴い、2次募集をし、現在の50駅となる。



<問題・課題>

- ・ 会議を今後どのように行っていくかが問題である。
- ・ みんなの気持ちの掘り起こしをしていかななくてはならない。
- ・ 本庄が好きだからという人もいるが、まちの駅としてのミッション、ポリシーがしっ

かりしていないので、NPOになるにあたって考えていきたい。

- ・今はボランティア精神のある人がいるから、続けていけるが、共助という意味で商店が協力していく上では、利益が落ちるといった問題があると考えている。

#### <その他>

- ・街おこしを見ると、物（例えば、箱物、豪農の館、食品）で活性化していこうというのが全体の90%であるが、街おこしは「人、物、事おこし」である。なかでも、「人起こし」のボリュームが不足している。
- ・まちの駅は地域の人たちの知恵を集めて何かをしようという試みであり、決定打ではないかもしれないが、試行錯誤することによって街おこしができるのではないかと考えている。

### 3.5.3.6 「ホッと人駅」

#### (1) 実施概要

日時：平成21年9月3日（木） 午後4時30分から午後5時

場所：アイメガネ本庄南大通り店

講師：「ホッと人駅」 駅長 松浦 常雄 氏

#### (2) ヒアリング内容

##### <まちの駅になったきっかけ>

- ・町おこしにまちの駅を使おうと思った。
- ・まちの駅は市と商工会議所が関わって始め、一つの宣伝になる。メガネ店は関係のない人は入りづらいので、一般の人が入りやすく、敷居を下げ開放感を出すため。



##### <まちの駅でのイベントの参加>

- ・駅長会議内での情報公開など、他のまちの駅の人とのネットワークが増えた。
- ・商工会議所の配り物などを、自店に来てくれたお客さんに配ることができる。
- ・店先にある地域の地図は情報の発信にもなる。
- ・まちの駅の活動というわけではないが、店には実際に人が乗ることができる鉄道模型があり、イベント時には1日に650人くらいが乗ったりしているそうである。

##### <まちの駅になったの感想と今後の方向性>

- ・長岡、見附へ視察に行き、まちの駅にも立ち寄った。見附は市長さんが頑張っているが、駅によって温度差があるように感じられた。本庄でも、他の地域でも同様と思われる。
- ・地域情報を発信するべきである。インターチェンジがあり、本庄市の中心・学校などに行く人が多いので、看板を立てれば役に立つ可能性がある。
- ・クレジットカードのような、まちの駅で使えるカードを作れば、値引きなどのサービスを得られる。切符の形のクーポン券など、加盟店で利用できるものを作っていけば良いと考えている。

- ・ 全国でのネットワークを強化するべき。まちの駅の数を増やさないと機能しないが、増えすぎると駅同士の関係が薄くなってしまう。
- ・ まちの駅は老人専用、子供専用、女性専用というまちの駅があっても良いのではないかと思う。それぞれの駅に特徴を持たせるべきである。
- ・ 学生なりの意見を出し、成果を発信していくべき。課題を見極め、フィードバックしてほしい。

### 3.5.3.7 「駅に一番近い駅」

#### (1) 実施概要

日時：平成21年9月3日（木） 午後6時から午後6時30分

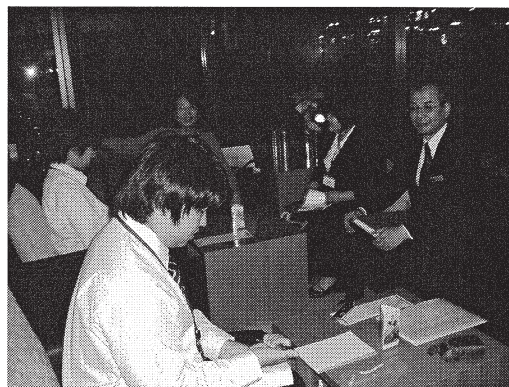
場所：「駅に一番近い駅」（埼玉グランドホテル本庄）

講師：埼玉グランドホテル 総支配人 荻原 浩 氏

#### (2) ヒアリング内容

##### <「駅に一番近い駅」について>

- ・ 「駅に一番近い駅」は、埼玉グランドホテルにある駅で、ロビー等のホテルの機能を生かしてまちの駅の活動をしている。
- ・ ホテルには、パブリック・スペースがあること、および、ランドマークとしての機能もあることを市民に知ってもらって、有効に活用してもらいたいという気持ちで参加した。



##### <まちの駅としての主な活動>

- ・ ホテルに宿泊や飲食をしない人でも使えるパブリック・スペースがあるため、そこを交流の場や待ち合わせの場として提供している。
- ・ コンビニやオフィスなどのお手洗いを貸す場が減ってきているので、ホテルの中のお手洗いを提供している。また、車いす用トイレもある。
- ・ 基本的にはホテルとしての機能をまちの駅の活動に利用している。

##### <まちの駅のイベントへの参加>

- ・ ホテルは従業員が多いことと交代勤務制であるため、イベントの準備などにおいては、対応がしやすい。
- ・ 春祭りでは、「まちの駅ネットワーク本庄」のひとつの駅としてブースを出し、ウェディングポスターや風船の配布をした。

##### <他地域のまちの駅の人達との交流>

- ・ 春祭りの際、他の地域から訪れた人達と交流した。このようなまちの駅の活動等に参加することは、ホテル業としては少しはマイナス面もあるが、外に出て行くことでホテルの存在を思い出してもらい、そしてホテルを活用する人が増えれば、それが街の活性化に繋がってくれる。

<まちの駅として活用する人の状況>

- ・ 実際まちの駅として活用する人は少ないのが現状だが、まちの駅が何かを尋ねる人は結構いる。まちの駅の活用という点ではまだまだだが、まちの駅を知ってもらうという点では進展していると感じている。

<ホテルとしてのまちの駅での強み>

- ・ 本庄のまちの駅では個人の商店の人がたくさん入っているのだが、「赤ちゃんの駅」という機能においては、従業員が多く女性スタッフもいるため、他の商店等よりは対応がしやすいのではないかと思う。
- ・ 道案内においても、館内で道を知っている人を探すこともできるので対応しやすい。
- ・ イベントや会議などの参加中も、個人の商店ではその間店を閉める必要があり、お店を利用するお客様に迷惑をかけてしまうけれども、ホテルにはたくさんの従業員がいるので、たとえ一人が少しの間抜けたとしても、ホテルとして支障がでるということは少ないのでそういう面ではやりやすい。
- ・ 災害時の避難場所にもなっている。

<まちの駅になってのメリット・デメリット>

- ・ メリット：子連れのお母さんが、お湯を借りたい時にホテルに声をかけづらいが、まちの駅という旗があるので少しは声をかけやすくなっていると思われる。

### 3.5.3.8 「市民の役に立つ駅」（本庄市役所）

#### (1) 実施概要

日時：平成21年9月4日（金） 午前10時20分から午前11時50分

場所：「市民の役に立つ駅」（本庄市役所）

講師：本庄市経済環境部 商工課課長 大野 清 氏  
本庄市経済環境部 商工課 商工観光係課長補佐兼係長 石川 悦男 氏  
本庄駅の駅 駅長、本庄市経済環境部 商工課 光山千恵子 氏

#### (2) ヒアリング内容

<本庄市役所がかかわっているまちの駅について>

- ・ 本庄市役所は3つのまちの駅を持っている。一つは「市民の役に立つ駅」で本庄市役所がそれに当たる。二つめは「本庄駅の駅」で本庄市インフォメーションセンターにあり、光山さんが駅長である。三つめは「こだま桜の駅」で本庄市児玉総合支所にある。

<まちの駅としての主な活動>

- ・ 道が分からない人に総合受付の女性が道案内をしている。観光案内もしている。外国人に対する対応等もしている。
- ・ これらはまちの駅として職員を置いている



わけではなく、総合案内の一環としての業務である。つまり、まちの駅として行っているわけではなく、市役所の機能の一つとして行っている。

#### <まちの駅のイベントへの参加>

- ・ 「市民の役に立つ駅」としては、市役所であることから出店はできない。イベントに対して職員を派遣するとなると、市内で行われるすべてのイベントに職員を派遣しなければならないになるので不可能に近い。

#### <まちの駅と市役所の関わり>

- ・ 「まちの駅ネットワーク本庄」の立ち上げ時に、助成を本庄市観光協会と商工会議所が共同で行った。
- ・ 本庄市では市が主導的な立場でまちの駅の活動を進めていく気持ちはない。仲間として、地域を活性化させていくスタッフの一員と考えている。
- ・ 市役所は観光協会でワンクッション置いて関わっている。3駅の年会費も本庄市観光協会が支払っている。
- ・ 「まちの駅ネットワーク本庄」は市の補助団体ではない。市が補助金を出したり、施設を貸し出したりする場合には、任意団体では無理でNPO法人でなければ実施出来ない。

#### <本庄市が本庄のまちの駅に望むこと>

- ・ まちの駅を50駅もつくってもらってありがたいが、まちの駅の力量が分からない。まちの駅の広報誌を作る等して、まちの駅を発信していくべきだと考える。
- ・ まちの駅には期待するものもたくさんあるが、それを認知していくための作業が足りないと思っている。
- ・ 市のオーダーに応えられるだけの組織作りをしていってほしいと思っている。

#### <行政視点のまちの駅の存在>

- ・ まちの駅の活動、ネットワークにより、市内での人的ネットワークなどの交流の情報が分かるようになった。
- ・ 祭りのとき等、他所から来た人にどう対応するかというのが大きな問題である。道案内やトイレなどに困った人のために、サポートしてくれている点でまちの駅の存在は大きいと思っている。
- ・ とりわけ、JRの「駅からハイキング」のイベントにおいては2000人を超える人が参加するので、まちの駅の方々がその人達をもてなしてくれているので助かっている。
- ・ これまで「本庄まつり」のポスターを郵送していたが、まちの駅を通して配布できるようになった。また、まつりのアンケートの集計もまちの駅ネットワークにお願いしている。
- ・ まちの駅の活動を通して、おもてなしの心が再認識されるようになり、まちの駅の活動をしていない人も親切になったと思われる。

#### <本庄市としてのまちの駅の今後の研究>

- ・ まちの駅だけにこだわるわけにはいかないが、本庄市内では認知度が上がってきてい



ると思われる。実際に市もいろいろなところに視察に行っている。市としては、今後まちの駅の活動を研究して、市を活性化する方策を考えたいと思っている。

- ・ また、まちの駅の人達が他地域のまちの駅へ、視察に行った結果を、報告をしてくれるのも助かる。

### 3.5.3.9 「香りと遊ぶ駅」

#### (1) 実施概要

日時：平成21年9月4日（金） 午後1時から午後2時

場所：お仏壇の根岸

講師：「香りと遊ぶ駅」 駅長 根岸 初枝 氏

#### (2) ヒアリング内容

##### <まちの駅になったきっかけ>

- ・ 参加したら面白いだろうと思ったから。お店も楽しくやりたいと考えている。営業に繋げるのは難しいので、そのことは考えていない。
- ・ 色々な方と会えたら楽しいと思ったから。



##### <まちの駅のイベントへの参加>

- ・ 七福神ウォーキングではコースに入っていなかったが、来てくれた方におもてなしをプレゼント（明かりと香りのプレゼント）を配った。来てくれた方には、お茶とお菓子も出しゆっくりして貰ってもらった。ウォーキングツアーではリピーターも多い。
- ・ 春祭りでは、オリジナルろうそくを作るというイベントを実施した。普段から、ろうそく作りの体験教室を行っている。体験教室の様子はHPにアップしている。参加してくれた方の中には、再び足を運び、さらに友達を連れて来てくれた方もいた。

##### <まちの駅になっての感想>

- ・ まちの駅となり、メンバー同士の交流が生まれ、お客さんとの交流も増えた。他のまちの駅の人と初めて会っても、目的が同じなので話ができる。
- ・ 今回のヒアリング調査のようなことがあると、自分の店をもう一度客観的に見ることができ、良い機会であると感じている。
- ・ 日々の活動はあまり無いが、まちの駅は子供たちの逃げ場所にもなり、グループを作ることによって子供たちを犯罪から守ることができる。まちの駅にはいろいろな可能性があると考えている。
- ・ 自分は店があるため出かけて行けないが、色々な所から来た人から話を聞くことで、旅行気分になれた。それも目的の一つである。会津地域の視察には、旦那さんが参加したそうである。
- ・ まちの駅の活動ではないが、「日本を美しくする会」の活動で、学校のトイレ掃除をさせてもらっている。そのグループ活動を通じて様々な情報や話が聞けるので、楽しんで参加している。

### 3.5.3.10 「御大師様が立ち寄られる駅」

#### (1) 実施概要

日時：平成21年9月4日（金） 午後2時30分から午後3時15分

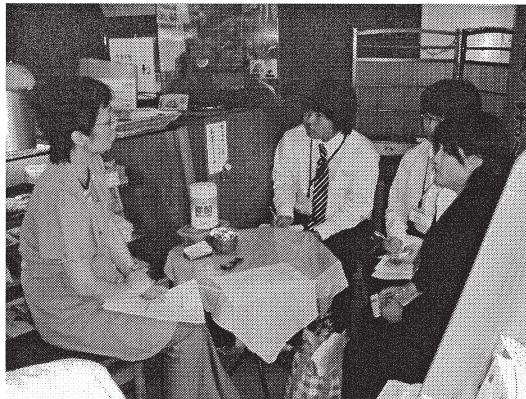
場所：(有)御菓子司 せきね

講師：「御大師様が立ち寄られる駅」 駅長 関根 雅美 氏

#### (2) ヒアリング内容

##### <まちの駅になったきっかけ>

- ・ 阿奈さんが声を掛けてくれて、面白そうと感じたから。
- ・ 町中を何とかしたいという気持ちもある。活気を取り戻せば魅力的な町になるのではないだろうか。魅力があれば、人が戻ってくるかもしれないし、他の地域からも来てくれるかもしれない。
- ・ 本庄は地震、台風、水害などもなく、生活もそこそこで住みやすいが、文化的特徴がないのは寂しいと感じている。自分たちで何かつくればという気持ちを持っている。この点もまちの駅になったきっかけである。



##### <まちの駅でのイベントの参加>

- ・ 会津の視察に参加した。また、見附から人が来てくれて、イベントを手伝ってもらったこともある。
- ・ 見附の「全国うまいもの市」で栗羊羹を販売してもらったことがある。
- ・ 駅からハイキング、春祭りの時にお客が来てくれている。普段のお客さまはそれほど増加してはいないが、少なくともマイナスにはなっていない。
- ・ 市の広報誌に、まちの駅全体として載せてもらった。ケーブルテレビで放送してもらったこともある。

##### <まちの駅になったの感想>

- ・ これからのまちの駅の活動として、仲間同士の繋がりを深め、外部へと発信していきたい。
- ・ 課題として、まちを良くしていこうとしているグループは様々あるが、それらのグループと横の連携が十分取れていないという点があげられる。
- ・ 皆、同じ土俵で、気軽に話せるようにするという点、若い人を育てていくことが重要であると考えている。
- ・ まちが活性化しているとは思わないが、やらないよりは良いと思っている。自分自身がまちのことに興味をもてるようになった。自分ができることは些細なことだろうが、何かしなければと思うようになった。全体が良くなると、自分のところもよくなる。自分のところを大事にするだけでは駄目だと思えるようになった。

### 3.5.4「まちの駅ネットワーク本庄」の特徴的取組

「まちの駅ネットワーク本庄」の特徴的取組および特徴的体制として、以下の6つがあげられる。

#### (1) 「まちの駅」間の貸し傘制度

「まちの駅ネットワーク本庄」では、まちの駅間の貸し傘制度がある。各駅に貸し傘が置かれていて、返却は他のまちの駅でも可能となっている。駅長会議に傘を持ち寄り、貸し傘の数量を調整しているそうである。



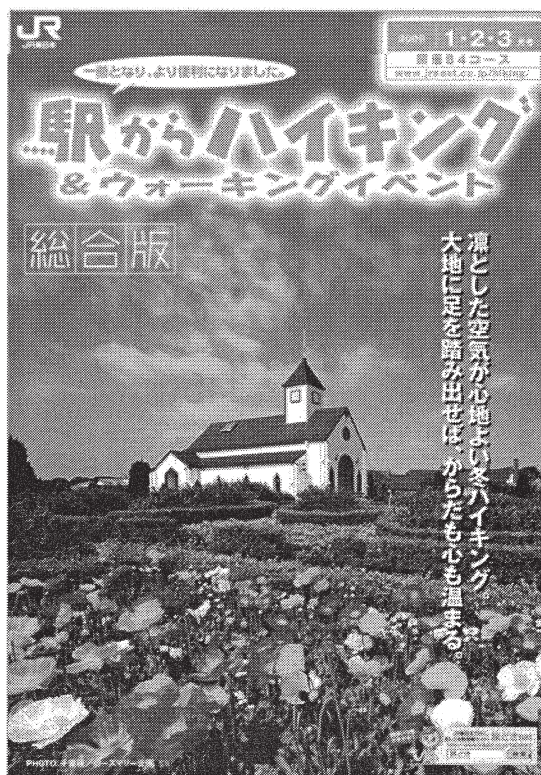
#### (2) 「赤ちゃんの駅」活動の取り組み

「まちの駅」は個人商店が多いが、ホテルもまちの駅になっており、「赤ちゃんの駅」として機能している。今後、老人専用、子供専用、女性専用などのいろいろな形態のまちの駅があっても良いのではないかと考えられている。駅長さんもおり、それぞれの駅が特徴を持った活動をしていこうともしている。

#### (3) 駅からハイキング（JRウォーク）の実施

本庄地域では「駅からハイキング」として「七福神巡り」が行われている。本庄の七福神は旧中山道沿いを中心に9つの神社に設置されている。この七福神巡りは、本庄駅をスタートとして9つの神社を巡り、民族資料館や旧本庄商業銀行や市民プラザといった本庄の観光スポットを巡り本庄駅にゴールするコースである。毎回約2,000人が参加するそうである。

そのときに、「まちの駅」ではお茶やお菓子のサービス、記念撮影をするなど、おもてなしのサービスをしている。



#### (4) まつり・イベントへの参加

「駅からハイキング」同様、「まちの駅」が主催となっていない「まつりや・イベント」にも積極的に協力して、おもてなしのサービスをしていることも特徴的である。

#### (5) NPO法人化に向けてネットワークが一体化

現在、「まちの駅ネットワーク本庄」は任意団体であるため、市から補助金を受けられなかったり、施設利用が許可されない状況にある。今後は、NPO法人化を目指すことで、活動を強化していこうとしている。

#### (6) キーパーソンの存在と視察や勉強会の開催

月1回駅長会議の場を持ち、その中で映画上映や懇談会、グループディスカッションといったことも取り入れ、交流を進めている。また、幹事駅を13か所つくり、その幹事駅でスタッフ会議を行って主な決定をし、全体会議で承認を得る形をとっている。

講演会や勉強会を年1～2回行っており、講演会は一般の方も交えて行われている。平成19年は鹿沼市、平成20年は長岡市・見附市に、平成21年は会津若松市に視察に行った実績もある。

定期的ではないが、全体会議欠席者に資料を届ける時など、電話だけでなく事務局が個別に訪問し、直接顔をあわせている。

### 4. 今年度のその他の活動

#### 4.1 パネル展および写真展

##### (1) 企画から実行まで

今年も「まちの駅」を紹介するパネル展示を行うことになり、各「まちの駅」へ挨拶文とともに展示品の依頼を行った。さらに今年度の活動の一つであるヒアリングを行った際の富士市、会津若松市、本庄市の写真の展示や各地域の特徴を紹介した。



##### (2) 当日の様子

去年同様200人以上の来客があり、大勢の方に「まちの駅」を知って頂くことができた。来客の多くは年配の方で、自分の知っている店が「まちの駅」だったんだと懐かしがっている様子が伺えた。

さらに今年は展示物が多く写真展と同時に行ったことで華やかな展示会となった。今年度は、学生だけで来客対応を行い、大変だったがやりきることができた。



##### (3) 実施後の反省点

2年連続で展示会を行ってきたが、どちらの展示会も若い方の来客が少なく年齢層に偏りが出てしまう結果となってしまった。次の課題としては、比較的年齢層が高い方達だけでなく、若い年齢層にも、興味を持ってもらえるような展示会を開くことが課題であると考えている。

<工夫した点>



展示品が多かったため、乱雑な印象をもたせないように、配置に気を配った。その結果、去年よりもさらに華やかな会場を作ることができた。

#### 4.2 まちの駅の食材を用いた模擬店（G P補助金対象外の活動）

##### (1) 企画から実行まで

今年も去年と同じく豚汁とおにぎりの販売を行った。「まちの駅」をPRする目的で、まちの駅の中で野菜を作っておられる駅長さんに交渉し、野菜を売っていただいた。駅長さんの善意で、野菜の価格を市場価格よりも大幅に安く売っていただき、原価を抑えることに成功した。

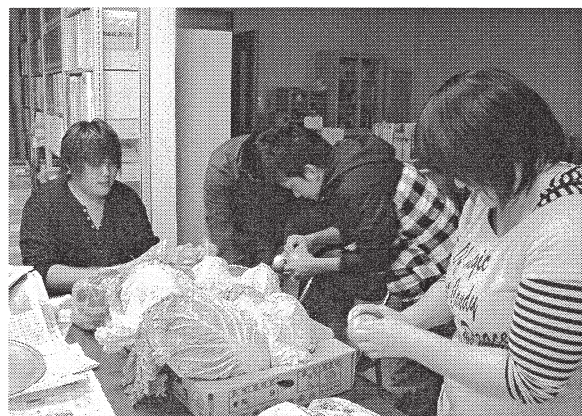
※今回の野菜は旧山古志村の「竹沢よりみちクラブ291（ふくいち）の駅（理容ほしの）」から譲っていただいた。

##### (2) 当日の様子

1日目は学生4人体制で模擬店を行っていたが、2日目は初日を大きく上回る来客となり、人手が足りなくなる状況になってしまった。しかし、今年は去年よりも念入りに計画を立てたため、多少の品切れはあったが、目標数を販売することができた。最終的にはお米以外の食材を全て使い切ることができ、非常に満足いく結果となった。



<イベント当日は、早朝から集まり、とん汁とおにぎりの仕込みを開始した>



<1日目 予想以上の売れ行きで、品切れ状態となった>



<2日目 徐々に慣れ始め、効率よく作業できた。もっとも賑わうお昼時の様子>



<予想以上の売れ行きで、メンバー総出で作業している様子>



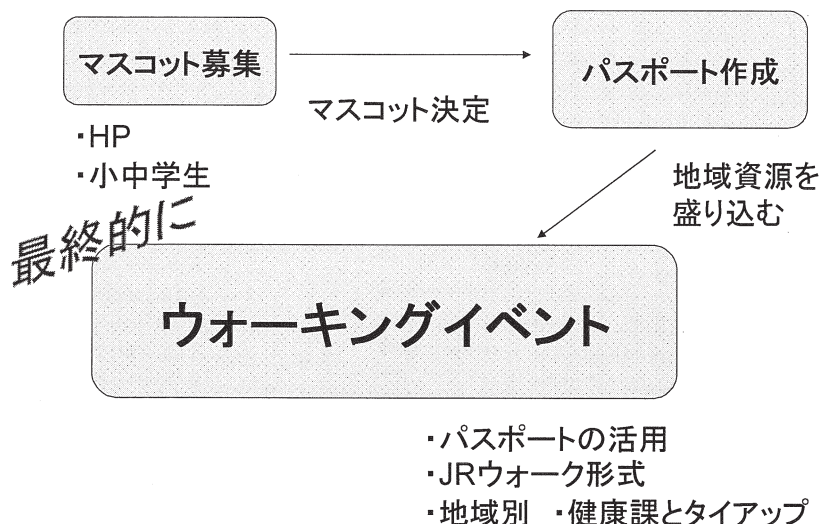
### (3) 実施後の反省点

1日目、油を準備するのを忘れたため、隣の模擬店から少し分けてもらった。計画に抜けがあったことを反省した。準備はしていたが、予想を上回る来客があり、人手が足りない状況になってしまい、おにぎりや豚汁の完成が遅れて、お客さんに迷惑をかけることもあった。次回は余裕をもった計画を立て、今回失敗した部分を改善したい。

## 5. 地域活性化への提言（とりまとめ）

### 5.1 提言の全体像

今年度の調査結果を受けて、次年度以降の「越後長岡まちの駅」の活動として、マスコットおよびパスポートの作成とウォーキングイベントの開催を提言したい。なお、次年度は、提言にとどまらず、「まちの駅」の様々な活動に積極的に参加したいとも考えている。



### 5.2 具体的提言内容

#### 5.2.1 マスコットの募集と作成

##### (1) マスコット導入理由

マスコットキャラクターを作成している会津地域の事例を見ても、マスコットキャラクターは商用できると考えられる。また「越後長岡まちの駅」のイメージを定着させるという意味でも有効ではないかと考えられるため、マスコットの導入が望まれる。

##### (2) マスコットキャラクター募集に関する企画案

###### (2-1) 企画案1：HP等を利用した企画案

会津まちの駅で実施した際は200点を超える応募があった。募集をかけるだけでも「越後長岡まちの駅」のPRに繋がると思われる。形式は会津の募集要項を参考にする。市内での募集は「市政だより」に掲載したり、駅の掲示板を利用したり、各まちの駅で配布等の方法を取る。また、HPを利用して広く市外からも応募を募ることによって、より一層の長岡のPRができるものと思われる。

###### (2-2) 企画案2：市内小中学校からの募集

市内小中学校へマスコットキャラクターの募集をかけることによって、市内の子どもたちが長岡の地域活性化に興味を抱いてくれるきっかけとなるのではないかと。また、そこから様々なイベントへの参加にも繋がるのではないかと。

#### 5.2.2 パスポート作成

##### (1) パスポート導入理由

パスポートを導入することによって、合併地域の相互理解を深めることができるので

はないか。また市外の人にも長岡を知ってもらう機会になると思われる。

地域ごとのパンフレットについて現在検討中とのことなので、よりよいパンフレットとなるように協力していきたい。

## (2) パスポート作成に関する企画案

### (2-1) 企画案1：ウォーキングイベントとの併用

ウォーキングイベントの際に、スタンプラリーを実施してはどうか。そのスタンプラリーの冊子として、まちの駅のパスポートが使用できれば、より多くの方へのPRになると思われる。

### (2-2) 企画案2：地域資源の盛り込み

パスポートに地域資源を盛り込み旅行のパンフレットとしても使用できるようにする。また作成にあたり、まち歩きを実施してはどうか。つまり、コースを指定しないウォーキングイベントである。

これにより、普段その地にいる方が気付かなかったような新たな地域資源に気づくのではないか。

## 5.2.3 ウォーキングイベントの実施

### (1) ウォーキングイベントの導入理由

ウォーキングイベントは、富士地域、本庄地域の例から、長岡にも多くの人を呼び込める可能性が高い。またマスコットの企画や、パスポートの導入とも結びつけやすい企画である。さらに、ウォーキングは市民の健康づくりにも良い効果を生むと思われる。

### (2) ウォーキングイベントに関する企画案

#### (2-1) 企画案1：駅を始点としたJRウォーキングイベント形式

富士地域、本庄地域を参考としたJRタイアップ型のウォーキングイベント形式が考えられる。この形式では、JRとタイアップするため、市外の参加者を呼び込みやすいと考えられる。具体的地域としては、

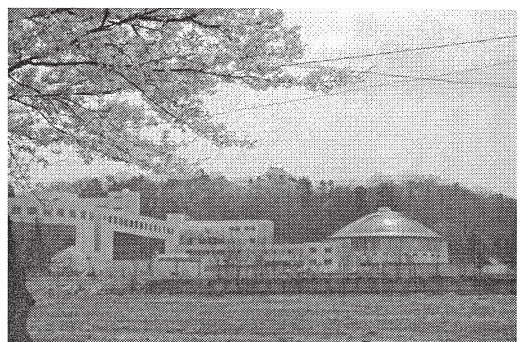
① 和島地域

② 市民センターを中心とした長岡市街地を巡る形式  
などが良いのではないか。



#### (2-2) 企画案2：四季別に各地を巡る形式

長岡市は合併により、山から海までを持つ市となった。そこで、地域ごとにウォーキングイベントを開催し、より多くの地域資源を感じてもらえるような企画にしてはどうか。これにより長岡市内での人的交流を生むことができるのではないか。





(2-3) 企画案3：健康増進を取り入れた企画

長岡市の福祉保健部健康課が作っているウォーキングマップのうち和島地域など、まだ作成されていない地域のマップを共同作成して、その中に「まちの駅」を取り入れイベントを共同実施することも考えられる。

## 謝 辞

最後に、お忙しい中、私たちの取組を全面的に応援してくださった「ながおか市民センター」の木村さん、ありがとうございました。ヒアリング調査、パネル展、模擬店で協力、支援をしてくださった富士、会津、本庄の「まちの駅」の皆様、長岡市の「まちの駅」の皆様、ありがとうございました。

また、豚汁づくりや報告書の作成等、いろいろと協力してくださった長岡大学地域活性化GP室の山田さん、松本さん、本当にありがとうございました。

そして、この取組を実施するうえでご協力いただいたすべての方々にお礼を申し上げます。

本当にありがとうございました。

